

● わが家の防災メモ ●

		一次避難先	二次避難先
家族の集合場所	大雨・洪水		
	内水氾濫		
	土砂災害		
	地震・津波		
	ため池決壊		

● 家族の連絡先

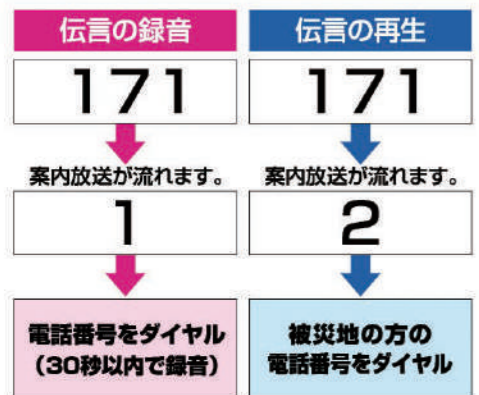
氏名	続柄	電話番号・携帯電話番号	勤務先・部署/学校名・学年	血液型	メモ(アレルギー・持病等)

● 親せき・知人の連絡先

氏名	続柄	電話番号・携帯電話番号	住所等

災害用伝言ダイヤル

地震等の災害発生時に、安否確認などの電話が増加し、つながりにくい状況になった場合、提供されるサービスです。



下記の期間に体験利用ができます。

- 毎月1日、15日 ●正月三が日(1月1日~3日)
- 防災週間(8月30日~9月5日)
- 防災とボランティア週間(1月15日~1月21日)

緊急速報メール・エリアメール
各携帯会社から自動でメールが配信されます

松島町テレビ回覧板

松島町では災害情報やくらし、イベントなどの情報がご自宅のテレビで簡単に確認できるようにしています。

- 配信内容 災害情報、くらし、イベント情報、その他
- 登録方法 ①テレビの電源を入れ、5チャンネル(東日本放送(khb))に合わせる。
②リモコンのdボタンを押す。
③テレビ画面の「松島町のテレビ回覧板」を選択し決定ボタンを押す。

緊急連絡先

松島町役場	松島町高城字帰命院下-19番地の1	354-5701(代表)
松島交番	松島町松島字浪打浜6番地の1	354-2024
品井沼駐在所	松島町幡谷字吉崎46番地の3	352-2311
松島消防署	松島町松島字蛇ヶ崎右53番地	354-4226
松島町水道事業所	松島町高城字田中二1番地	354-5711
東北電力(停電・緊急時の問合せ)	—	0120-175-366
NTT東日本	—	0120-444-113
ガス会社 ※個別にご記入ください	—	—

警察 110 番 救急消防 119 番



松島町

総合防災マップ

Matsushima Town All Hazard Map



目次

■ 防災マップに掲載しているハザード情報	■ 大雨による災害とその被害
.....121~22
■ 災害に関する情報の種類と入手方法	■ 災害時の警戒レベルと「取るべき行動」
.....223~24
■ 避難所・避難先の種類	■ 家の点検(風水害)
.....325
■ 避難所一覧	■ 洪水浸水想定区域等について
.....426
■ 地図索引	■ 大雨による浸水が予想される区域など
.....5~627~34
■ 地震が起こったその時に	■ ため池について
.....7~835
■ 発令情報と行動	■ ため池の決壊により浸水が予想される区域
.....9~1036~38
■ 二次災害と津波避難の心得	■ 各災害における避難行動確認フロー
.....1139~40
■ 家の点検(地震)	■ 災害に備えて
.....1241~43
■ 地震被害想定・津波浸水想定区域について	■ 私の・我が家のハンドブック
.....1344~45
■ 揺れやすさマップ・地域の危険度マップ	■ webハザードマップの使い方
.....1446
■ 津波による浸水が予想される区域	
.....15~20	

歴史・文化の継承と創造



宮城県宮城郡松島町高城字帰命院下-19番地の1
TEL. 022-354-5782 (総務課 環境防災班)

松島町総合防災マップ

発行：松島町総務課 環境防災班
発行日：令和6年3月

このマップの使い方

1 知る



本防災マップを見て、各種ハザードの仕組みや被害範囲、自宅などで想定される被害や避難先、避難経路を知っておきましょう。

2 考える



各種ハザードマップを確認し、避難行動確認フローから自分が有事の際にどのような行動をとるべきなのか考えましょう。

3 備える



災害に対応するには、日頃の備えが重要です。災害が発生する前から家族や地域で防災対策に取り組み、いざというときに備えましょう。

突発的に起こる災害の種類

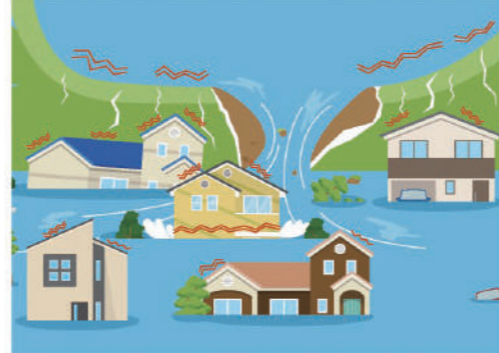
地震・津波



土砂災害（地震時）



ため池決壊（地震時）



時間とともに状況が変化する災害の種類

外水氾濫



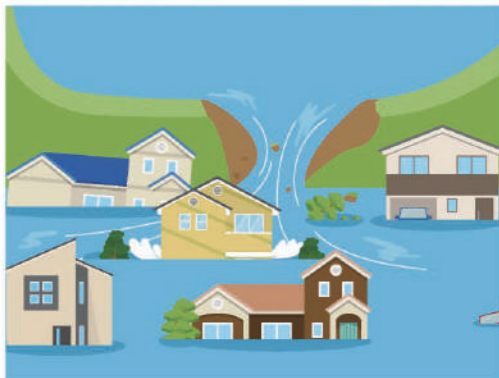
土砂災害



高潮災害



ため池決壊



内水氾濫



●防災行政無線

地震、風水害、津波、その他緊急事態が発生し、または発生が予測される場合に放送されます。

防災行政無線の内容は「電話番号：050-5526-7197」で確認できます

●広報車

災害時には、情報提供活動や避難誘導活動を必要とする場所に、地域住民への情報伝達方法として広報車で音声広報を行います。



携帯・スマホでは

●松島町 安全安心メール

松島町では、地震・風水害などの災害情報や犯罪情報などの緊急性の高い重要情報をメールにて配信しています。

●SNS

松島町 Facebook



松島町 X (旧 Twitter)



松島町 LINE 公式アカウント



●緊急速報メール・エリアメール

緊急時の連絡や行政情報等を住民や観光客のみなさんに伝達します。

●宮城県「土砂災害警戒メール配信システム」

希望のエリアの「大雨特別警報・警報・注意報」や「土砂災害警戒情報」をメールでお知らせします。



屋内では

●テレビ・ラジオ等

一般的な災害情報については、テレビ・ラジオ等からも収集ができます。松島町では災害情報や暮らし、イベントなどの情報がご自宅のテレビで簡単に確認できるようにしています。
※操作方法は裏表紙をご覧ください。



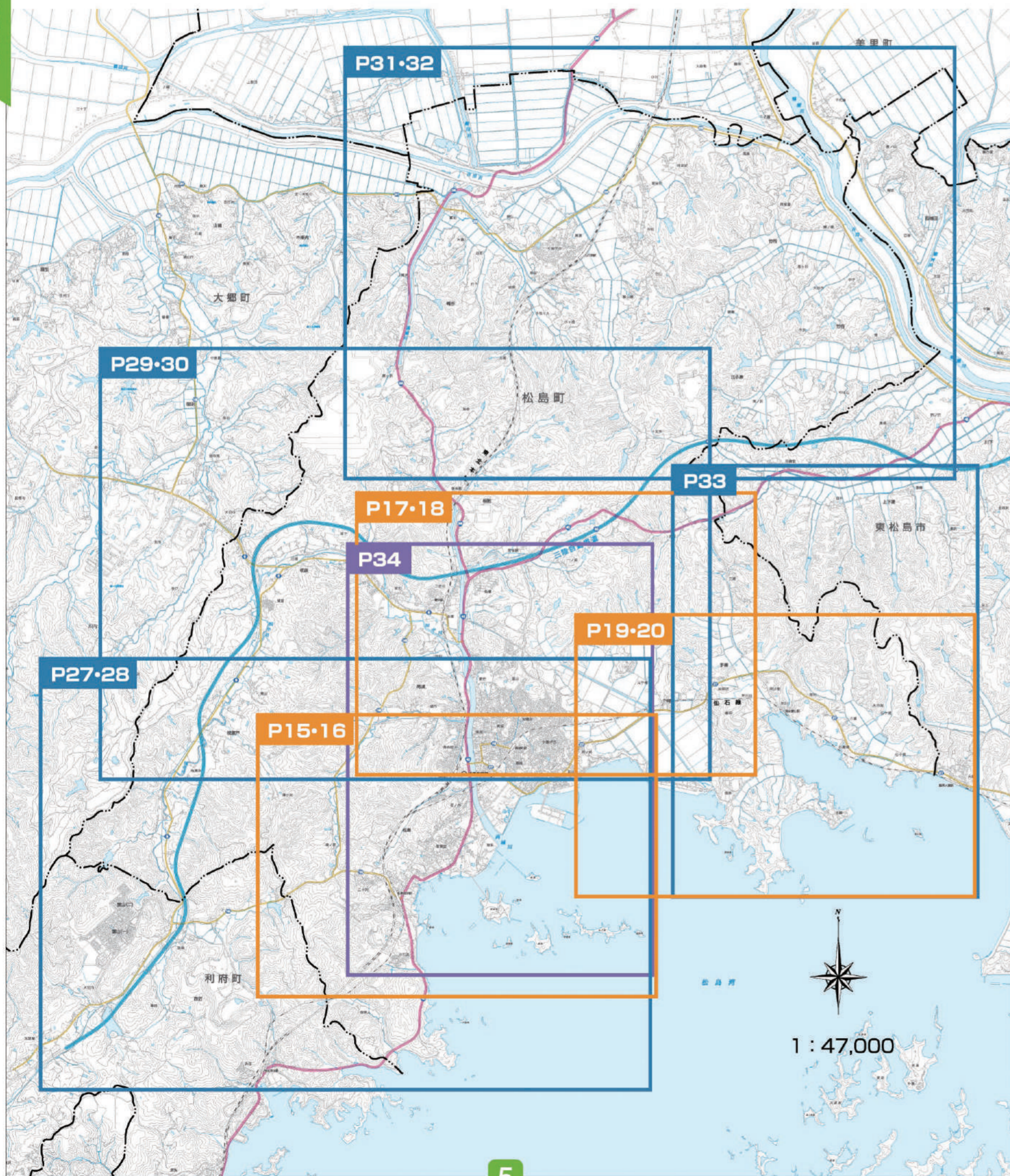
●松島町ホームページ



<https://www.town.miyagi-matsushima.lg.jp>

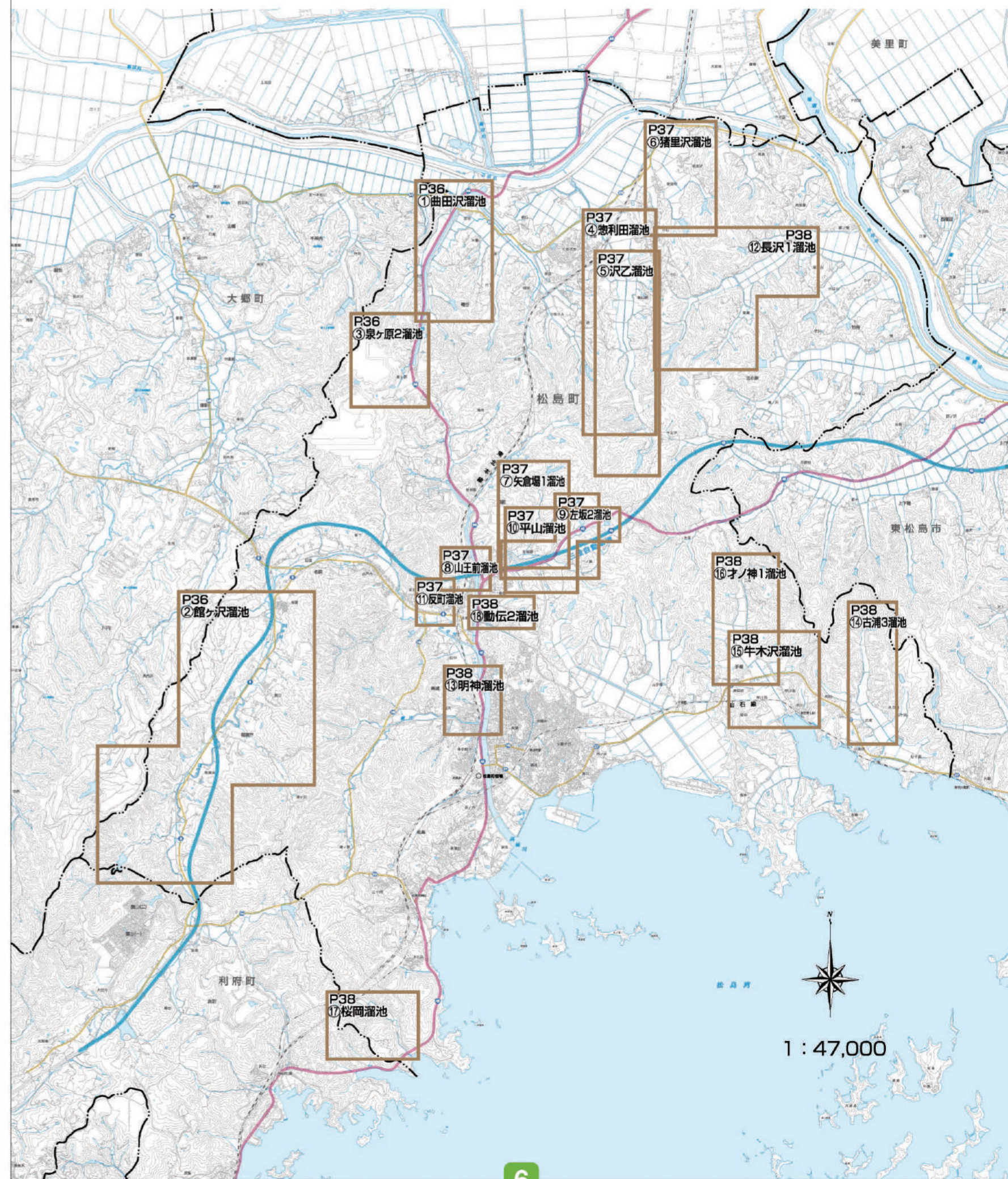
地震・津波、洪水・土砂災害、内水氾濫ハザードマップ

- 津波ハザードマップ 1/8,500
- 洪水・土砂災害ハザードマップ 1/13,000
- 内水氾濫ハザードマップ 1/13,000
- 地震揺れやすさマップ、地域の危険度マップはP13・14に掲載



ため池の決壊による浸水想定ハザードマップ

- ため池ハザードマップ 1/10,000



Point 1

グラっときたら身の安全を確保!

緊急地震速報の発表や長い揺れ、強い揺れを感じたら

自分がいる場所に応じて

「揺れから身を守る!」



※緊急地震速報とは、地震の発生直後に、各地での強い揺れの到達時刻や震度を予測し、可能な限りすばやく知らせる情報です。
テレビ・ラジオ・携帯電話・スマートフォン・防災行政無線(震度による)などでお知らせします。



Point 2

長い揺れ、強い揺れがおさまったら高台へ避難!

津波警報などの発表を待たず、とにかく避難!!

住まい、職場、学校、外出先などに津波の危険がある場合

「すぐ逃げましょう!」



長い揺れ、強い揺れがおさまったら、
すぐに高台へ避難!
とにかく走って、戻らない!
少しでも高いところへ!



津波避難の三原則

想定にとらわれるな

被害の想定を超える災害が起こる可能性があることを忘れず、想定にとらわれず、状況を見て避難しましょう。

その状況下において最善を尽くせ

「自分は大丈夫」という思いは持たず、その時々で最善の行動をとるようにしましょう。

率先避難者たれ

まず自分の身を守ることを考えて、率先して避難をしましょう。避難をしている姿を見せることで、周りの人たちの避難行動にも繋がります。

家の中なら…

料理中なら…



揺れが落ち着いたら火を消しましょう。

寝ていたら…



布団や枕で頭を守り、家具が倒れてこないところに身を伏せましょう。

入浴中なら…



ドアや窓を開けて出口を確保しましょう。

TVを見ていたら…



重い家具の近く、電灯の真下などから離れましょう。

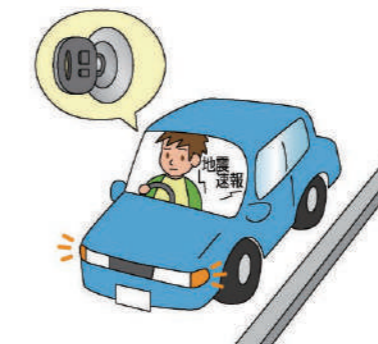
家の外なら…

店内などで
買い物中なら…



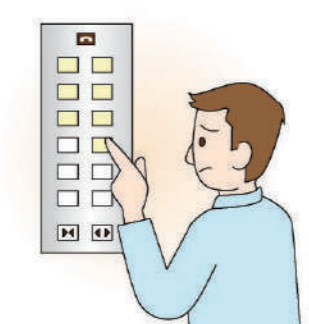
買い物カゴや鞆で頭を守り、店員の指示に従いましょう。

車の運転中なら…



道路の左に寄せて止め、ドアはロックせずにキーを置いたまま避難しましょう。

エレベーターの
中にいたら…



すべての階のボタンを押し、動かない場合は非常用連絡ボタンを押しましょう。

電車で
乗っていたら…



吊革や手すりにつかまり、体が放り出されないようにしましょう。

仕事・授業中なら…



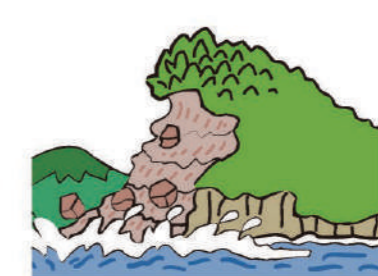
本棚やロッカーが倒れたり、窓ガラスが割れたりするので机の下などに入り身を守りましょう。

住宅地を
歩いていたら…



倒れてくる可能性があるため、ブロック塀や門柱などから離れましょう。

山やがけ付近では…



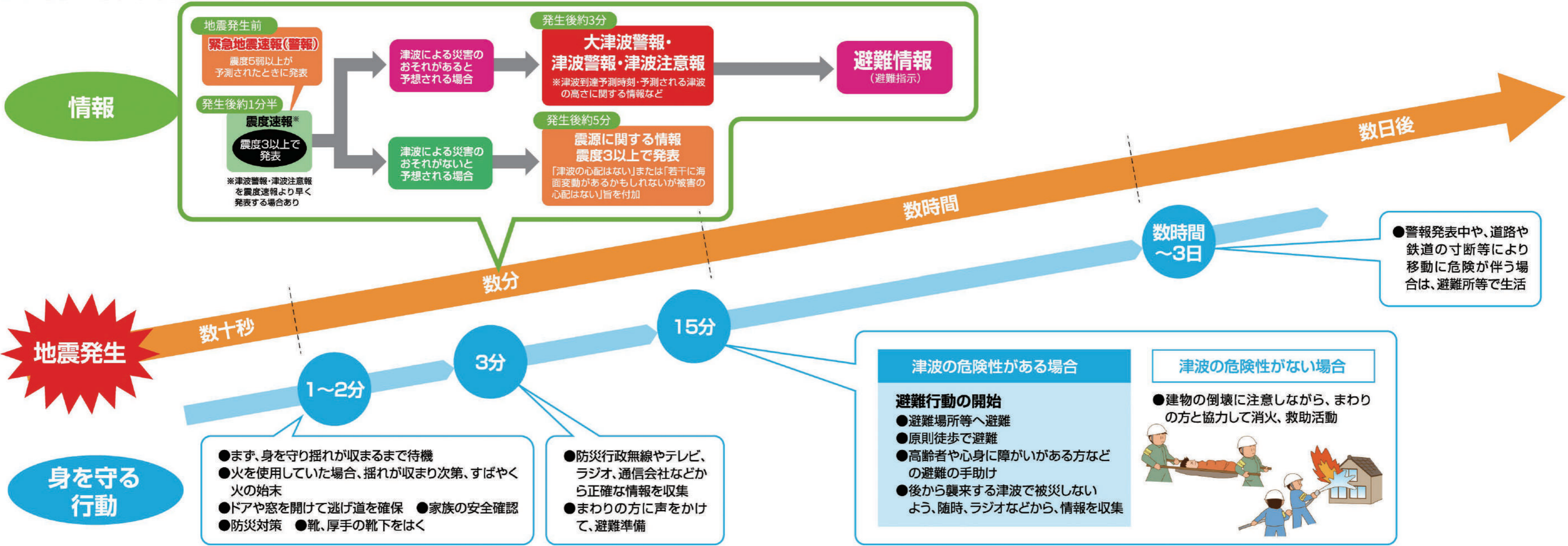
地震時には、土砂災害やため池の決壊にも警戒しましょう。

海岸や
河口にいたら…



地震を感じたらすぐに高台を目指して避難しましょう。津波警報・注意報解除まで近づいてはいけません。

地震発生後に発表される情報



警報・注意報の分類と「とるべき行動」

大津波警報、津波警報、津波注意報

地震発生後に津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より約3分後に津波警報・注意報などが発表されます。町では津波警報・注意報等が発表された場合「避難指示」を発令し、住民や観光客等へ避難を呼びかけます。

区分	発表基準	想定される被害	町が発令する避難情報	とるべき行動
大津波警報 (特別警報)	予想される津波の高さが高いところで3メートルを超える場合。	木造家屋が全壊・流出し、人は津波による流れに巻き込まれます。	津波浸水想定区域内の地区を対象に避難指示を発令	
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1メートルを超え、3メートル以下の場合。	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。		避難指示の対象区域にいる方は、直ちに高台の安全な場所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで20センチメートル以上1メートル以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが出し小型船舶が転覆します。	海岸付近(防潮堤より海側)を対象に避難指示を発令	

東日本大震災の記録

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、本町においても、町民21名(関連死含む)の尊い命が失われ、3,000戸以上の家屋等が被害を受けました。このような災禍を再び繰り返さないためには、この震災を経験して得た知識や教訓を後世に伝えていかなければなりません。

地震・津波の記録

発生日時	平成23年3月11日(金)14時46分
震源地名	三陸沖(北緯38.0度、東経143.9度 牡鹿半島の東約130km)
規模	マグニチュード9.0(観測史上最大) 震源の深さ約24km 松島町:震度6弱(宮城県)最大震度:栗原市 震度7)
津波発生	津波の高さT.P.+2.2m(16時13分 松島町第1波到達) 津波の高さT.P.+2.6m(16時40分 松島町第2波到達) ※長田地区潮位計に基づく推計値



北海道・三陸沖後発地震注意報

日本海溝・千島海溝沿いの想定震源域とその周辺で、マグニチュード7.0以上の地震発生後、続けて大きな地震が発生する可能性が通常より高まるため、注意の呼びかけとして内閣府・気象庁から発表される情報です。

発表されて1週間程度は、非常持出品を持ち歩くなど、続けて地震が発生したときにすぐ避難できるようにしておきましょう。



二次災害と津波避難の心得

■ 二次災害

大きな地震が発生した後は津波に気を付ける、という教訓は東日本大震災を契機に多くの人知っている重要な情報です。しかし津波のほかにも液状化や火災など、さまざまな二次災害が発生する可能性があるため注意が必要です。以下に示す対応例を参考に備えましょう。

● 建物倒壊・家具転倒による被害



● 液状化による被害



● 出火・延焼による火災被害



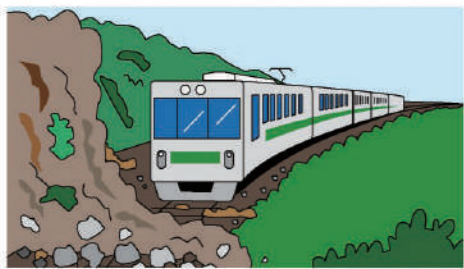
● 土砂災害



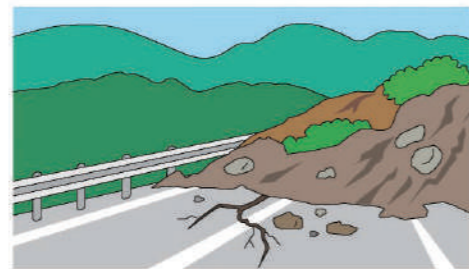
● 津波による被害



● 公共交通機関の寸断・停止



● 道路寸断



● 電気・ガス・水道の停止



■ 津波避難の心得

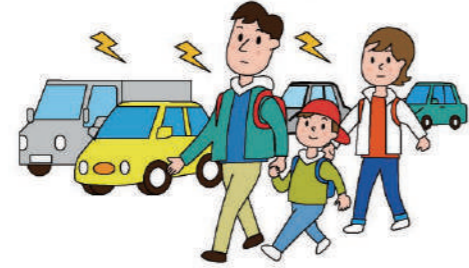
津波は避難することで助かる災害

津波から避難するときは、想定にとられず、可能な限り高く、より遠くへ逃げましょう。声を掛け合って避難することも大切です。



避難はなるべく徒歩で

車での避難は渋滞などにより身動きが取れず避難が遅れる可能性があります。また、他の徒歩避難者の円滑で安全な避難の妨げとなります。
※避難行動要支援者や要配慮者を除く



海岸・河川には近づかない

引き波がなくても津波が襲ってくることもあります。また、川を遡上してくることもあります。海岸や川の近くにいるときは一刻も早く避難し、警報・注意報が解除されるまで絶対に近づいてはいけません。



コラム

生死をわける避難

100%安全な避難計画はありません。もし〇〇だったら、想定外のことが起こったらと問い続け、地域や家族で話し合いを続けましょう。話し合うことでその問題が自分事になっていきます。

コラム

住民同士のつながりを育もう

日頃から祭りや町内行事に参加したり、挨拶をしたり日頃の付き合いの中で信頼関係を築くように心がけましょう。いざというときの助け合いで大切になるのは地域の力です。

家の点検（地震）

■ 家の点検

地震が発生した場合の被害を最小限にするために、家の中や周囲を確認しておきましょう。

地震対策は行政だけでできるものではありません。自分や家族の命・財産を守るためには、一人ひとりが協力して普段から備えておく必要があります。以下の情報を見て、自分の家の中やその周りをチェックし補強や配置換えなどの安全対策を行っておきましょう。

屋内

窓

- 窓枠はがたついていない
- 雨戸はがたついていない
- 窓ガラスの飛散対策をしている

家屋の耐震診断を行うことも大切です

消火器や水バケツの設置も大切です



室内

- 背の高い家具は固定されている
- 家具の上に重いもの・割れるものはない
- 玄関、廊下に大きな家具・荷物はない
- ストープに自動消火装置がついている
- ストープの近くに燃えやすい物はない
- カーテンの防災処理がされている

寝室にはスリッパと笛、懐中電灯を備えておくことが重要です。(懐中電灯は携帯電話のライトでも代替することができます)

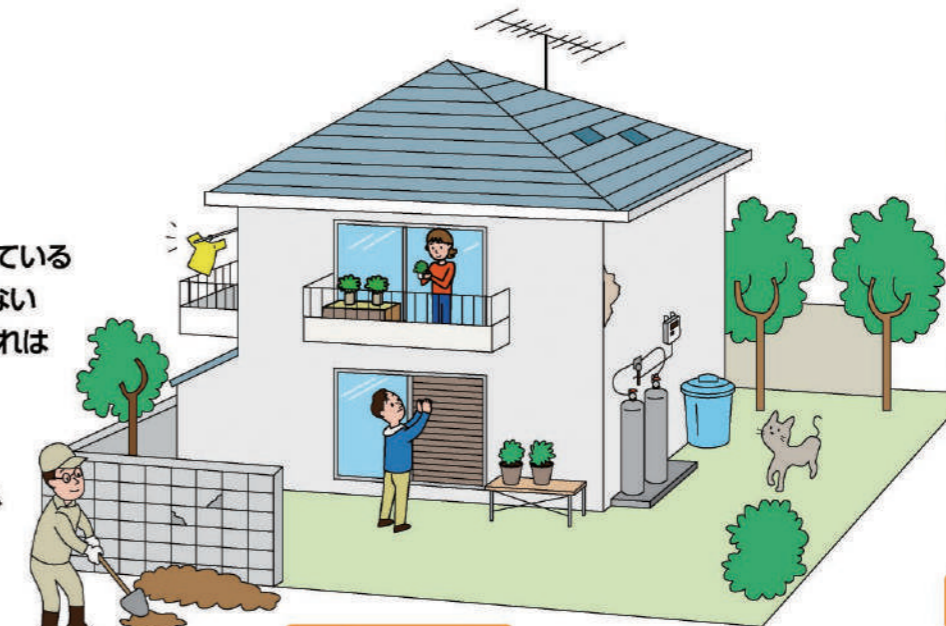
屋外

屋根・雨どい

- アンテナは固定されている
- トタンはめくれている
- 瓦にひび割れや剥がれはない

ベランダ

- 植木鉢や物干しなど、落下・飛散の危険がある物は固定されている



ブロック塀

- 傾きやひび割れはない
- 破損している箇所はない

その他

- ガスボンベは固定されている
- (店などの)看板のぐらつきはない
- 倒れそうなゴミ箱や植木鉢などは固定されている
- 庭木には添え木がされている

外壁

- 基礎に亀裂は見られない
- モルタルの壁に亀裂は見られない

木造住宅の耐震診断や改修工事の助成事業

松島町では木造住宅の専門家による住宅の耐震診断や耐震改修工事の助成事業を行っています。

【対象建築物】
昭和56年5月末までに建築確認を受けた住宅

お問い合わせ先

松島町 建設課 管理班
TEL 022-354-5715

地震被害想定・津波浸水想定区域について

地震被害想定について

この地震ハザードマップでは、宮城県第五次地震被害想定調査にて解析された各地震の中で、松島町に最も影響が大きいとされる「東北地方太平洋沖地震」(M9.0)によって発生する揺れを対象にした、「揺れやすさマップ」と「地域の危険度マップ」を掲載しています。

揺れやすさマップとは…

対象としている地震による揺れやすさ(震度)の分布を示しています。

地域の危険度マップとは…

揺れやすさマップにて示した揺れが発生した場合に想定される建物被害の分布を、危険度として評価し相対的に表したものです。この危険度は250mメッシュ単位で分割した地域にある建物の中で、全壊(*)する建物の割合を設定しています。

※地震による全壊のイメージ

居住のための基本的な機能を失った状態を指します。



住宅の全体もしくは一部の階がすべて倒壊している。



外壁や柱の傾斜が1/20以上である。

震度階級	人間の体感・行動	屋内・屋外の状況	木造建築物
7	立っていることができず、這わないと動けない。飛ばされることもある。	【屋内】固定していない家具の大半が移動し倒れたり、飛ぶこともある。 【屋外】補強されているブロック塀も破損するものがある。	【耐震性低い】傾くものや、倒れるものが多い。 【耐震性高い】壁などのひび割れ・亀裂が多くなる。まれに傾くことがある。
6強	立っていることが困難になる。	【屋内】固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 【屋外】補強されていないブロック塀のほとんどが崩れる。	【耐震性低い】壁などに大きなひび割れ・亀裂が入るものが多い。傾くものや、倒れるものが多い。 【耐震性高い】壁などにひび割れ・亀裂が見られることがある。
6弱	立っていることが困難になる。	【屋内】固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。 【屋外】壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。	【耐震性低い】壁などに大きなひび割れ・亀裂が入ることがある。瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。 【耐震性高い】壁などに軽微なひび割れ・亀裂が見られることがある。
5強	大半の人が物につかまらないうつろい、歩かなくなることが多い。	【屋内】棚にある食器類・本で落ちるものが多い。固定していない家具が倒れることがある。 【屋外】補強されていないブロック塀が崩れることがある。自動車の運転が困難となり、停止する車もある。	【耐震性低い】壁などにひび割れ・亀裂が見られることがある。
5弱	大半の人が恐怖を覚え、物につかまらないうつろい、歩かなくなることが多い。	【屋内】吊り下げ物が激しく揺れ、棚にある食器類・本が落ちることがある。固定していない家具が移動することがある。 【屋外】電柱が揺れるのがわかる。	【耐震性低い】壁などに軽微なひび割れ・亀裂が見られることがある。
4	ほとんどの人が驚く。歩いている人の多くが揺れを感じる。	【屋内】吊り下げ物は大きく揺れ、棚にある食器類が音を立てる。 【屋外】電線が大きく揺れる。	

津波浸水想定区域について

津波が想定される地震

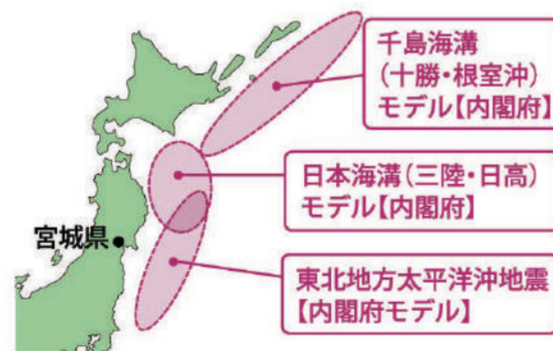
宮城県沿岸では以下3つの地震により最大クラスの津波被害を受ける可能性があります。

「千島海溝沿いの地震」「日本海溝沿いの地震」「東北地方太平洋沖地震」

宮城県ではこれらの地震をもとに解析を実施しており、本津波ハザードマップではその解析結果である基準水位による浸水範囲や津波到達時間などを示しています。

(※浸水範囲は3地震による津波浸水範囲を重ね合わせた最大値を表示しています。)

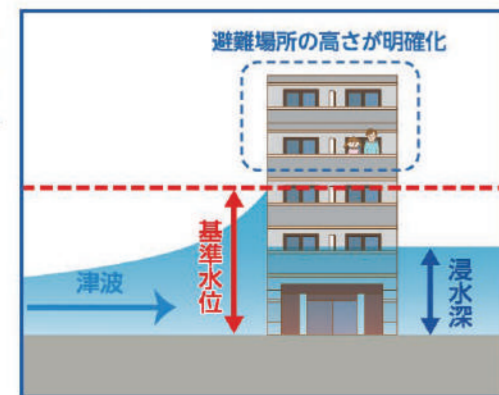
シミュレーションによる想定のため、実際には想定を上回る浸水範囲や津波高、津波到達時間となる可能性があります。



基準水位について

何階以上に避難すべきかをわかりやすく伝えるため、津波ハザードマップでは基準水位を表示しています。

※基準水位:津波浸水深に、建物への衝突による水位上昇(せき上げ)を考慮した水位



津波到達時間について

海岸沿いに設定された代表地点における、津波到達時間を下表のように津波ハザードマップ上に表示しています。自宅などから1番近い代表地点の津波到達時間をご確認ください。

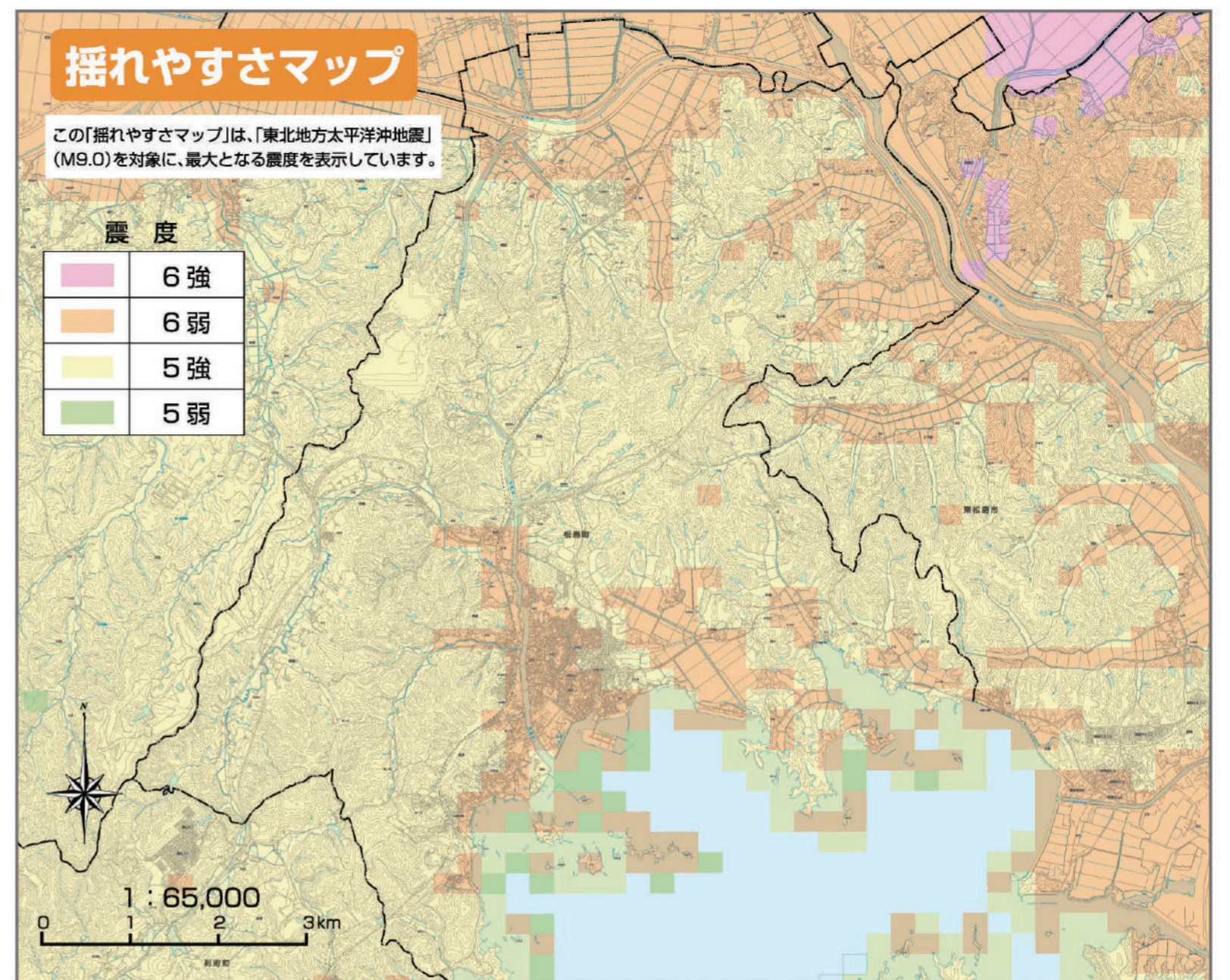
例:代表地点ごとの津波到達時間表

	松島町
地震発生から±20cmの水位変化が生じるまでの時間	津波影響開始時間 32分
地震発生から+1mの水位変化が生じるまでの時間	第一波到達時間 73分
地震発生から水位が最大到達高さまでの時間	最大波到達時間 124分
各代表地点の最大津波水位 T.P.00m:東京湾平均海面を基準とした高さ	最大津波水位 T.P.+3.7m

揺れやすさマップ

この「揺れやすさマップ」は、「東北地方太平洋沖地震」(M9.0)を対象に、最大となる震度を表示しています。

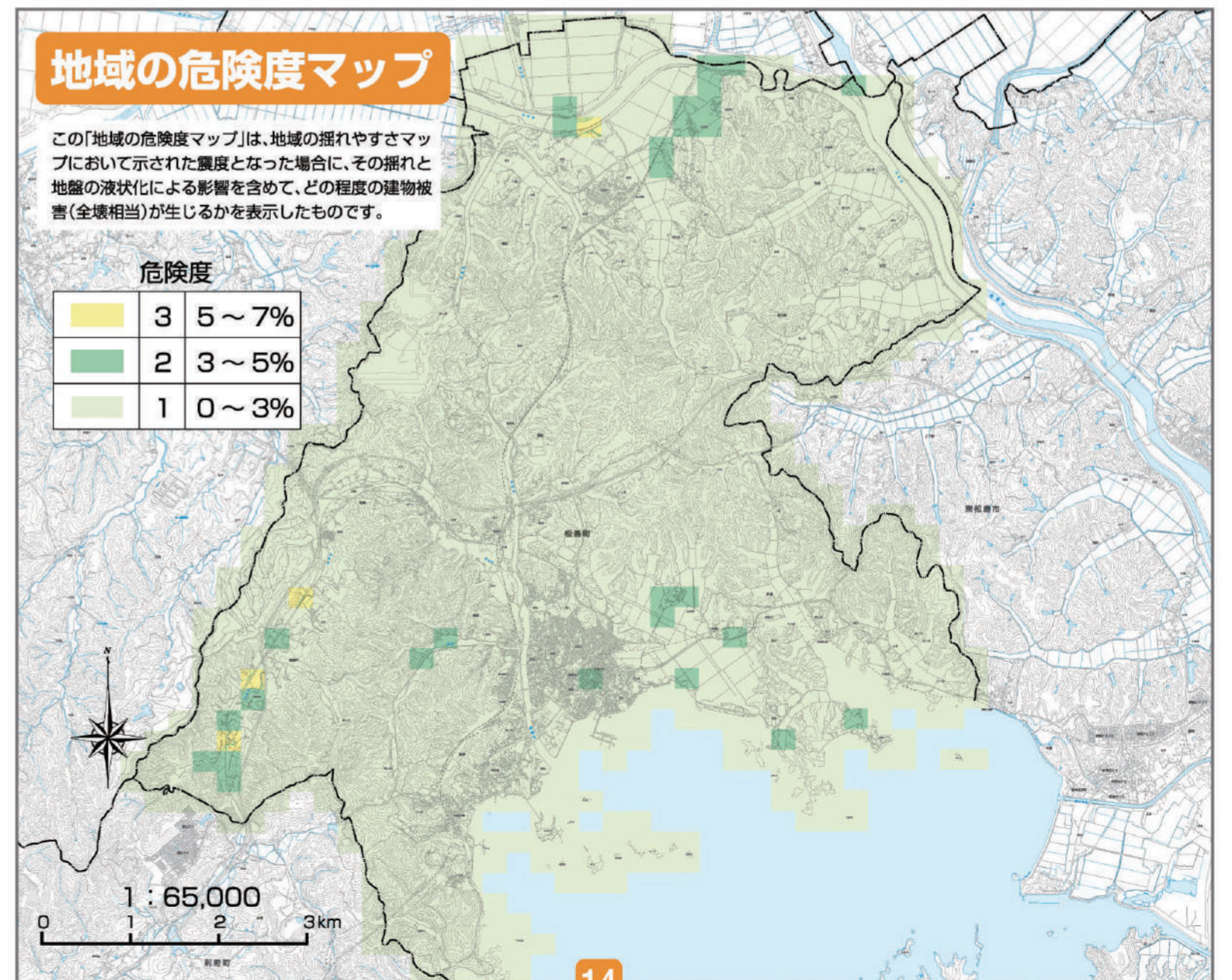
震度	色
6強	赤
6弱	オレンジ
5強	黄
5弱	緑



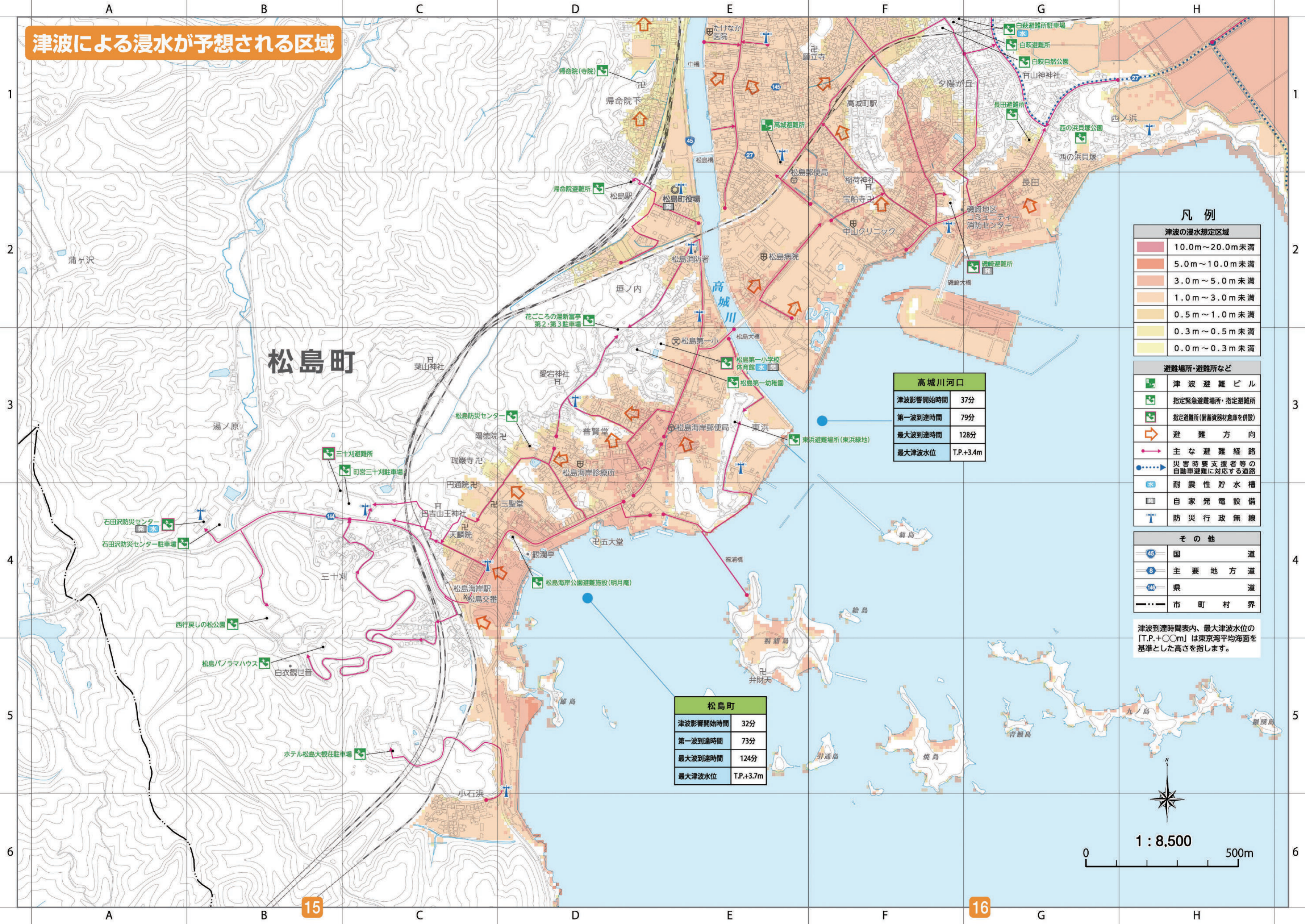
地域の危険度マップ

この「地域の危険度マップ」は、地域の揺れやすさマップにおいて示された震度となった場合に、その揺れと地盤の液状化による影響を含めて、どの程度の建物被害(全壊相当)が生じるかを表したものです。

危険度	色	割合
3	黄	5~7%
2	緑	3~5%
1	淡緑	0~3%



津波による浸水が予想される区域



凡例

津波の浸水想定区域	
	10.0m~20.0m未満
	5.0m~10.0m未満
	3.0m~5.0m未満
	1.0m~3.0m未満
	0.5m~1.0m未満
	0.3m~0.5m未満
	0.0m~0.3m未満

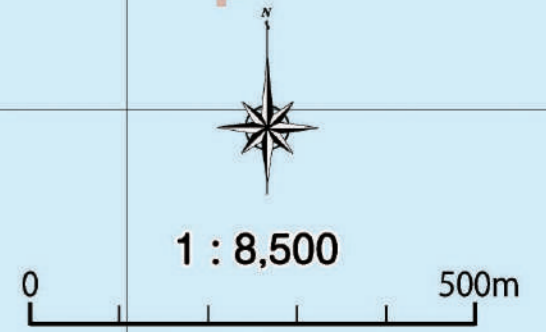
避難場所・避難所など	
	津波避難ビル
	指定緊急避難場所・指定避難所
	指定避難所(備蓄資器材倉庫を併設)
	避難方向
	主な避難経路
	災害時要支援者等の自動車避難に対応する道路
	耐震性貯水槽
	自家発電設備
	防災行政無線

その他	
	国道
	主要地方道
	県道
	市町村界

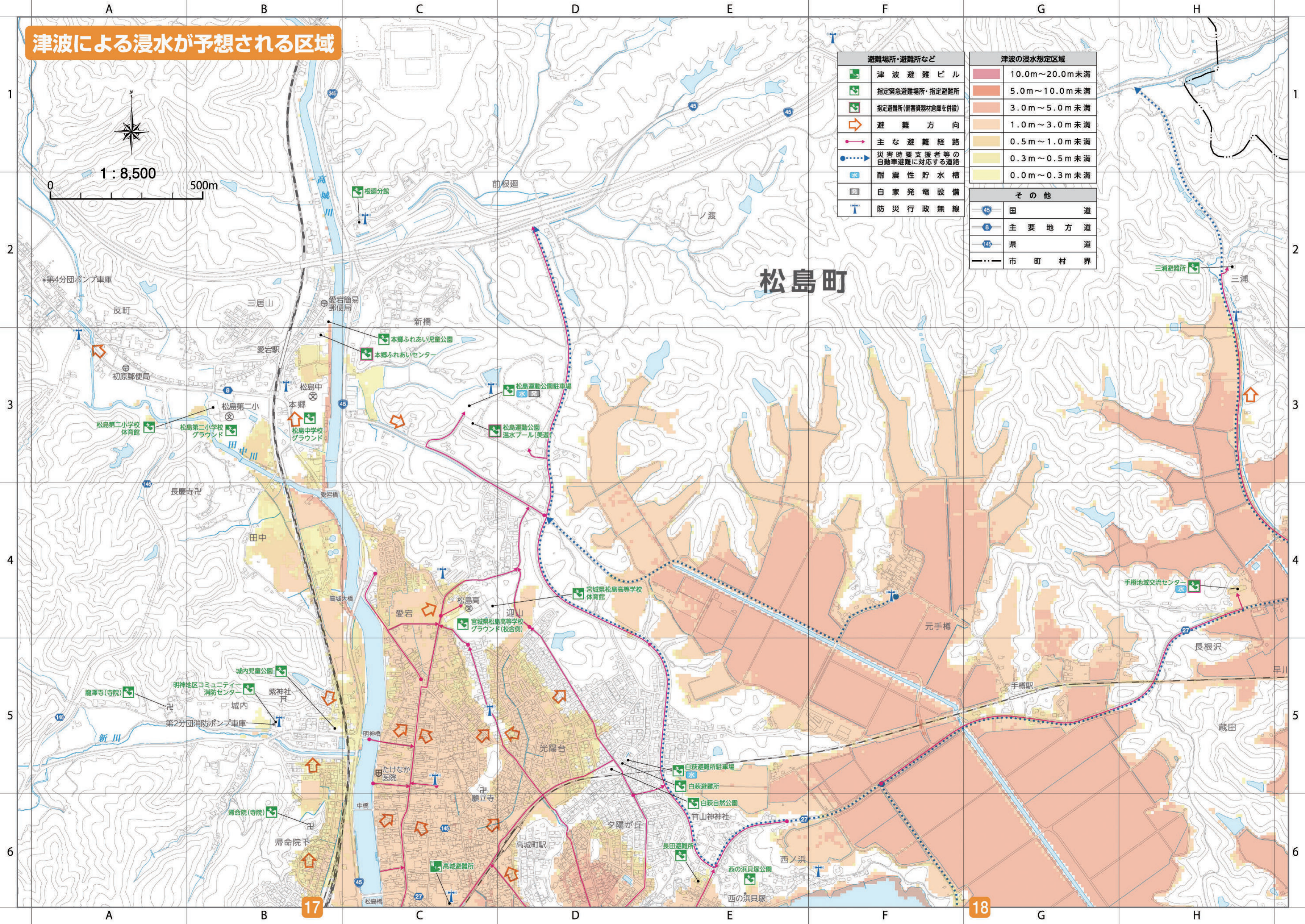
津波到達時間表内、最大津波水位の「T.P.+〇〇m」は東京湾平均海面を基準とした高さを指します。

高城川河口	
津波影響開始時間	37分
第一波到達時間	79分
最大波到達時間	128分
最大津波水位	T.P.+3.4m

松島町	
津波影響開始時間	32分
第一波到達時間	73分
最大波到達時間	124分
最大津波水位	T.P.+3.7m



津波による浸水が予想される区域



避難場所・避難所など	
	津波避難ビル
	指定緊急避難場所・指定避難所
	指定避難所(備蓄資材倉庫を併設)
	避難方向
	主な避難経路
	災害時要支援者等の自動車避難に対応する道路
	耐震性貯水槽
	自家発電設備
	防災行政無線

津波の浸水想定区域	
	10.0m~20.0m未満
	5.0m~10.0m未満
	3.0m~5.0m未満
	1.0m~3.0m未満
	0.5m~1.0m未満
	0.3m~0.5m未満
	0.0m~0.3m未満

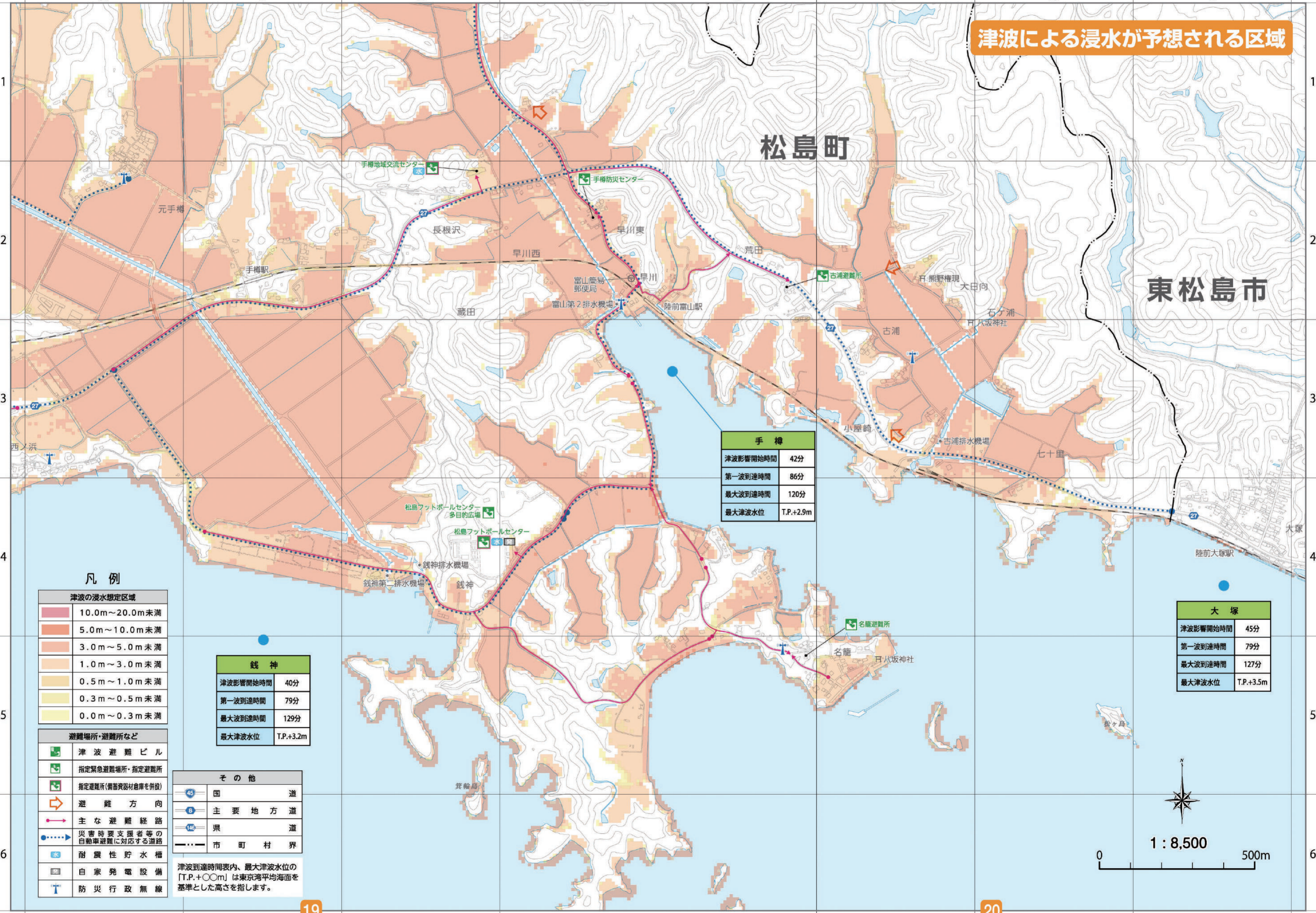
その他	
	国 道
	主要 地方 道
	県 道
	市 町 村 界

松島町

1:8,500
0 500m



津波による浸水が予想される区域



手樽	
津波影響開始時間	42分
第一波到達時間	86分
最大波到達時間	120分
最大津波水位	T.P.+2.9m

大塚	
津波影響開始時間	45分
第一波到達時間	79分
最大波到達時間	127分
最大津波水位	T.P.+3.5m

銭神	
津波影響開始時間	40分
第一波到達時間	79分
最大波到達時間	129分
最大津波水位	T.P.+3.2m

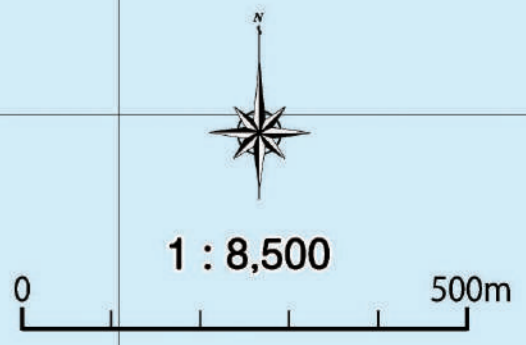
凡例

津波の浸水想定区域	
	10.0m~20.0m未満
	5.0m~10.0m未満
	3.0m~5.0m未満
	1.0m~3.0m未満
	0.5m~1.0m未満
	0.3m~0.5m未満
	0.0m~0.3m未満

避難場所・避難所など	
	津波避難ビル
	指定緊急避難場所・指定避難所
	指定避難所(備蓄資器材倉庫を併設)
	避難方向
	主な避難経路
	災害時要支援者等の自動車避難に対応する道路
	耐震性貯水槽
	自家発電設備
	防災行政無線

その他	
	国道
	主要地方道
	県道
	市町村界

津波到達時間表内、最大津波水位の「T.P.+〇〇m」は東京湾平均海面を基準とした高さを指します。



大雨による災害とその被害

大雨が発生する要因

梅雨前線等による大雨



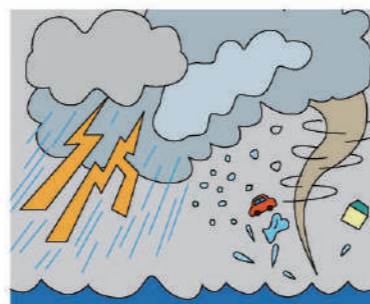
6月頃に梅雨前線、9月頃に秋雨前線が停滞し、雨が長期間に渡ることがあります。

台風による大雨



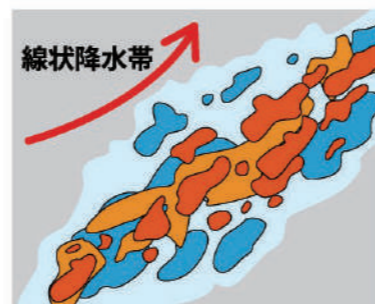
台風接近に伴い、広範囲で暴風雨が降ります。

ゲリラ豪雨



狭い範囲に短時間で強い雨が降らせ、これがゲリラ豪雨(局地的大雨)となります。

線状降水帯による集中豪雨



複数の積乱雲が次々と同じ場所を通過し、長時間激しい雨が降らせます。

大雨により発生する災害

水害

内水・外水氾濫

高潮

土砂災害

がけ崩れ

土石流

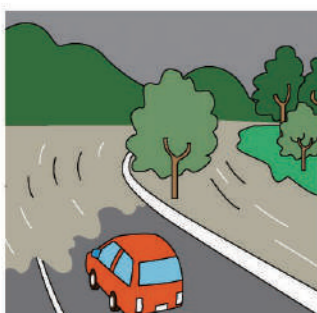
地すべり



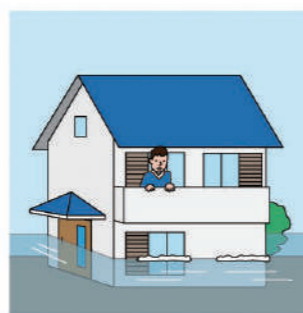
予想される被害

水害や土砂災害が発生した場合、以下のような被害が想定されます。

洪水や土砂による道路寸断



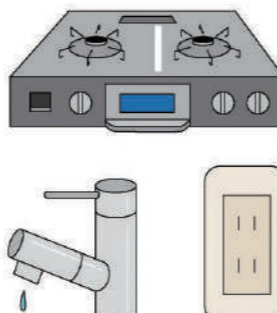
床上浸水



床下浸水



ライフラインの寸断



コラム

特定都市河川の指定(東北地方で初)

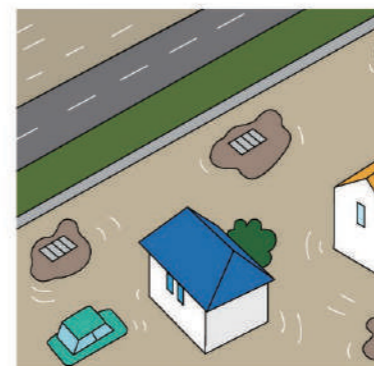
令和5年7月18日に国土交通省では鳴瀬川水系吉田川等の計26河川を、宮城県では高城川水系高城川等の計10河川を特定都市河川に指定しました。特定都市河川に指定されることで河川のハード整備および流域における貯留・浸透機能の向上が加速化します。また国・都道府県・市町村・企業・住民等のあらゆる関係者の協働による水害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくりを進め、ハードとソフトの両面において流域治水を推進していきます。

水害

洪水

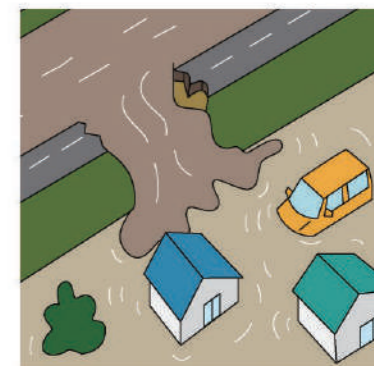
内水氾濫

急に発生した豪雨によって、降った雨が水路や下水道等に排水できずに起こる氾濫です。



外水氾濫

大雨で河川の水位が堤防の高さを越えたり、堤防が壊れて河川から水があふれて発生する氾濫です。



●河川の「水位情報」と「氾濫情報」

河川の水位が上がると、洪水のおそれがあるとき、国土交通省または宮城県から、水位名称とともに「洪水予測」、「水位到達情報」が発表されます。



各水位観測所の基準水位			発表情報	
洪水予測 河川	水位周知 河川	洪水予測 河川	水位周知 河川	発表情報
鹿島台 (鳴瀬川)	鹿島台 (吉田川)	高城 (高城川)	洪水予測	水位到達情報
—	—	—	氾濫発生情報	—
8.50m	7.90m	2.00m	氾濫危険情報	氾濫危険情報
7.90m	7.40m	1.80m	氾濫警戒情報	—
5.50m	5.80m	1.70m	氾濫注意情報	—
4.50m	4.00m	1.40m	—	—

洪水予測 河川 鳴瀬川、吉田川 (宮管理河川) 水位周知 河川 高城川 (県管理河川)

高潮災害

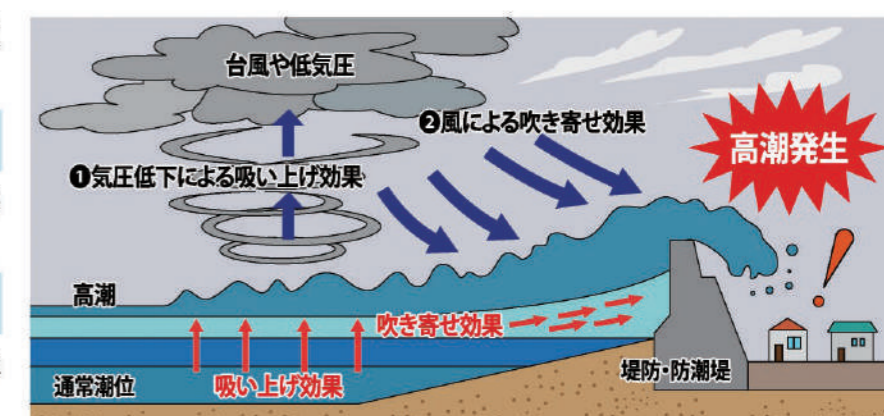
低気圧の影響で海面が上昇し、防潮堤や堤防を越えて市街地に海水が流れ込むものです。

①気圧低下による吸い上げ効果

台風や低気圧の中心では周りより気圧が低いため、中心付近の空気が海水を押し上げるように作用します。

②風による吹き寄せ効果

台風や低気圧に伴う強風が沖から海岸に向かって吹くと、海水は海岸に吹き寄せられ、海岸付近の海面が上昇します。



土砂災害

がけ崩れ

斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然崩れ落ちる現象です。



前兆現象

がけに割れ目が見えていたり、水が噴出、または小石がバラバラと落ちてくるなど。

土石流

山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨等によって、一気に下流へと押し流される現象です。



前兆現象

山鳴りが聞こえたり、川の流れが濁り流木が混ざり始める、雨が続けているのに川の水位が下がるなど。

地すべり

斜面の一部あるいは全面が地下水の影響と重力によって斜面下方に移動する現象です。



前兆現象

地面にひび割れができたり、沢や井戸の水が濁る、斜面から水が噴き出すなど。
※松島町内では該当無し

災害時の警戒レベルと「取るべき行動」

災害時の警戒レベル

気象状況	警戒レベル	気象庁等の情報			住民が取るべき行動	避難情報等
数十年に一度の大雨	5	大雨特別警報	—	災害切迫 氾濫発生情報	命の危険 直ちに安全確保 すでに安全な避難ができず、命が危険な状況。今いる場所よりも安全な場所へ直ちに移動等する。	緊急安全確保 (松島町が発令)
警戒レベル4までに必ず避難						
大雨の数時間～2時間程度前	4	土砂災害警戒情報 高潮特別警報 高潮警報	危険	氾濫危険情報	危険な場所から全員避難 台風などにより暴風が予想される場合は、暴風が吹き始める前までに避難を完了しておく。	避難指示 (松島町が発令)
大雨の半日～数時間前	3	大雨警報 洪水警報	警戒	氾濫警戒情報	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の人も必要に応じ、普段の行動を見合わせ始めたり、避難の準備をしたり、自主的に避難する。	高齢者等避難 (松島町が発令)
大雨の数日～約1日前	2	大雨注意情報 洪水注意情報	注意	氾濫注意情報	自らの避難行動を確認 ハザードマップ等により、自宅等の災害リスクを再確認するとともに、避難情報の把握手段を再確認するなど。	必ずしもこの順番で発表されるとは限らないのでご注意ください。
	1	早期注意情報 (警報級の可能性)	—	—	災害への心構えを高める	

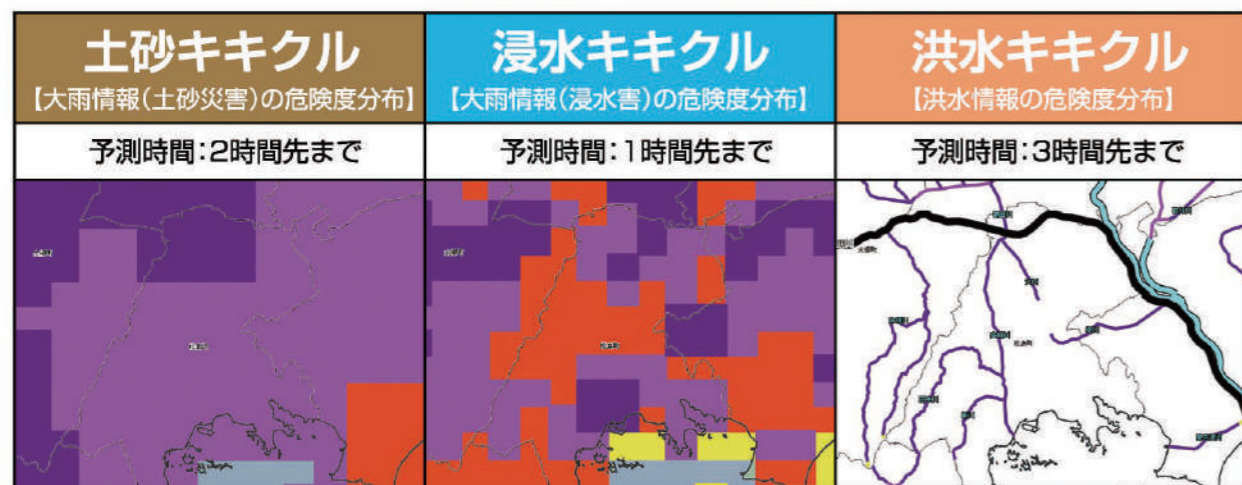
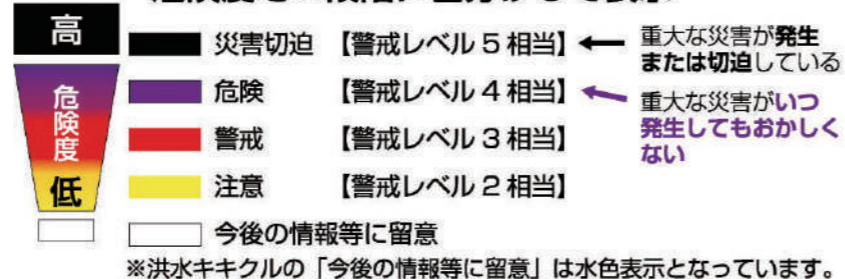
「特別警報」が発表されたら

- ・お住いの地域は、これまでに経験したことの無いような、重大な危険が差し迫った状況にあります。
- ・この数十年間災害の経験がない地域でも、重大な災害の起こるおそれが著しく高まっていますので、油断しないでください。
- ・ただちに身を守るために最善の行動を開始してください。

キキクルについて

キキクル(危険度分布)は、強い雨が降ってきたときや警報が発表されたときに、どこで土砂災害・浸水害・洪水災害の危険度が高まっているかを知ることができる情報です。リアルタイムだけでなく数時間先まで危険度が予測されており、今いる場所から避難の必要性を判断するのに役立ちます。

危険度を5段階に色分けして表示

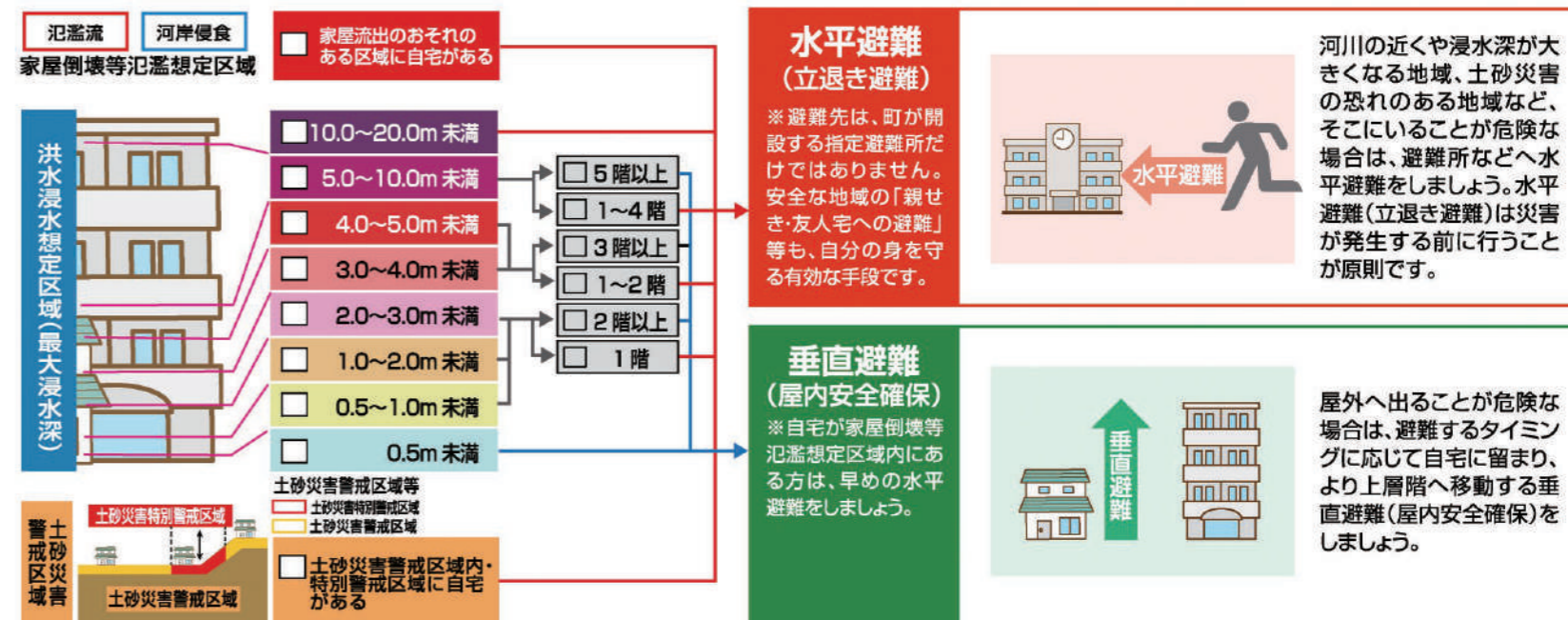


松島町周辺を表示するキキクルの二次元コード



大雨の時に取るべき行動

- 1 あなたの自宅はどれに当てはまりますか?
- 2 何階建てですか?
- 3 あなたの避難行動の目安を確認しましょう!



水平避難 (立退き避難)

※避難先は、町が開設する指定避難所だけではなくありません。安全な地域の「親せき・友人宅」への避難等も、自分の身を守る有効な手段です。

河川の近くや浸水深が大きくなる地域、土砂災害の恐れのある地域など、そこにいることが危険な場合は、避難所などへ水平避難をしましょう。水平避難(立退き避難)は災害が発生する前に行うことが原則です。

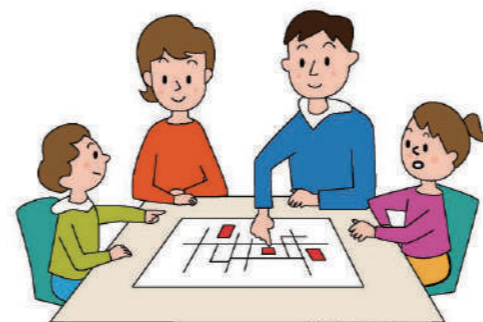
垂直避難 (屋内安全確保)

※自宅が家屋倒壊等氾濫想定区域内にある方は、早めの水平避難をしましょう。

屋外へ出ることが危険な場合は、避難するタイミングに応じて自宅に留まり、より上層階へ移動する垂直避難(屋内安全確保)をしましょう。

避難の心得

安全な避難経路は事前に確認しよう



情報収集と自主避難をしよう



避難の呼びかけには注意しよう



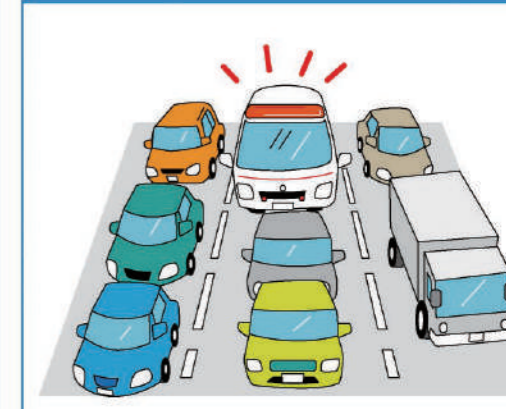
要配慮者の避難に協力しよう



動きやすい服装、2人以上で避難しよう



車での避難は控えよう

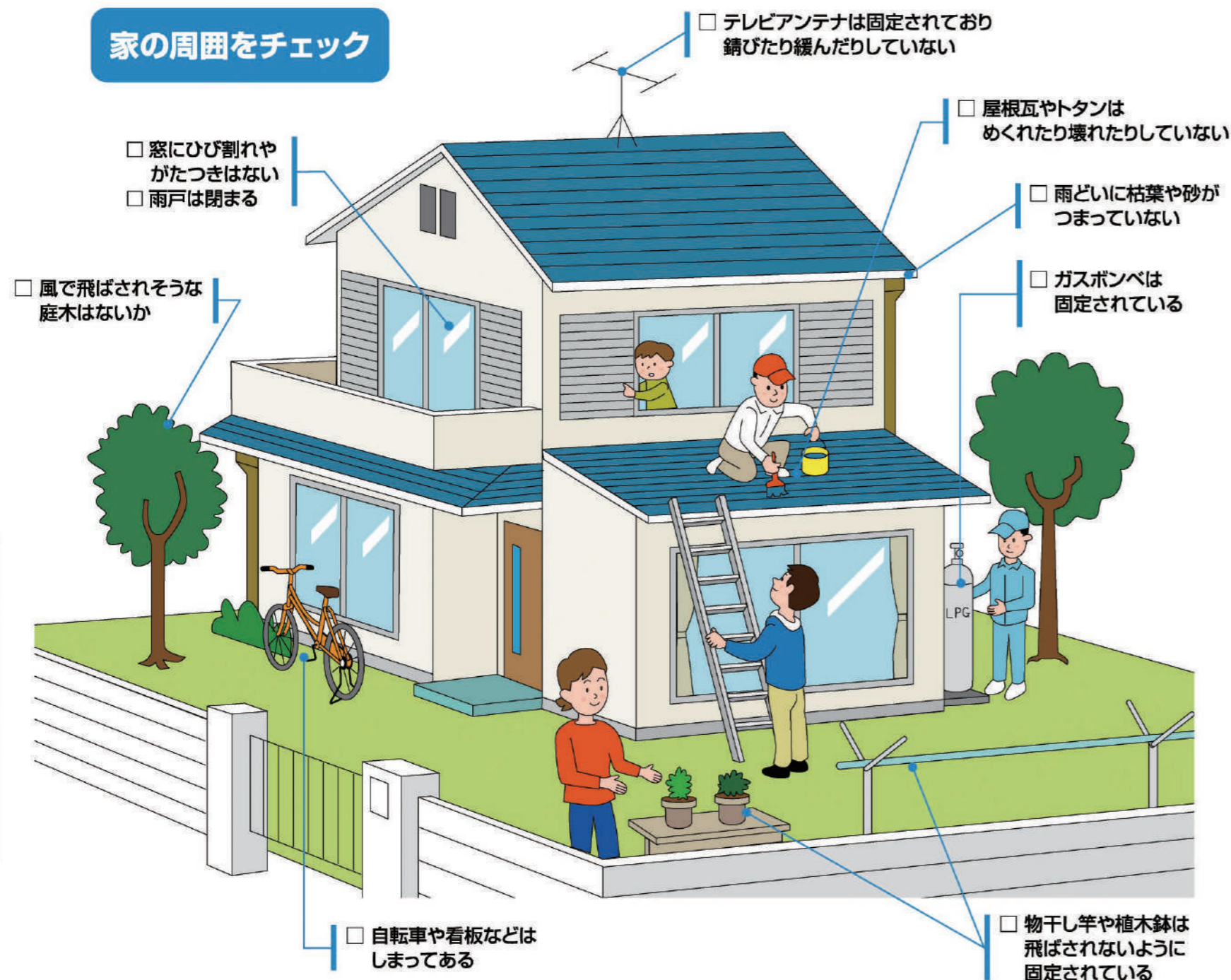


家の点検（風水害）

家の点検

風水害による建物の被害を抑えるため、日頃から自宅やその周辺の点検と修理・補強を行いましょう。

家の周囲をチェック



自宅のものでできる浸水対策

家庭にあるものを土のうや止水板の代わりに使用することで、浸水被害を軽減することができます。

簡易水防工法例 ①

ごみ袋とダンボール



簡易水防工法例 ②

ポリタンクとレジャーシート



簡易水防工法例 ③

プランターとレジャーシート



洪水浸水想定区域等について

洪水浸水想定区域について

洪水浸水想定区域図は、想定し得る最大規模の降雨に伴う洪水により河川が氾濫した場合の浸水範囲や、家屋倒壊等をもたらすような氾濫の発生が想定される区域（家屋倒壊等氾濫想定区域）を予測したものです。なお、想定している規模を超える降雨が発生した場合などには、浸水深や範囲が実際と異なる場合がありますので、注意してください。

河川名	想定最大規模の降雨
鳴瀬川	鳴瀬川流域の2日間総雨量563mm
吉田川	吉田川流域の2日間総雨量733mm
高城川	高城川流域の日総雨量600mm
新川	
田中川	鶴田川流域の24時間総雨量611mm
鶴田川	



令和元年台風19号通過後の様子

土砂災害警戒区域・特別警戒区域について

土砂災害から国民の生命を守る目的で施行された土砂災害防止法に基づき、土砂災害の恐れがある区域について、宮城県が調査を行い「土砂災害警戒区域」と「土砂災害特別警戒区域」の指定・公表を行っています。掲載している区域は、令和3年3月現在のものです。

土砂災害警戒区域（イエローゾーン）

土砂災害が発生した場合、住民の生命または身体に危害が生じるおそれのある区域です。

土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）

土砂災害が発生した場合、建物に損壊が生じ、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれのある区域です。



令和4年7月大雨時の様子

高潮浸水実績について

昭和54年10月におきた台風20号により発生した高潮被害の範囲を表示しています。

高城川水系内における被害実績	
浸水面積	87ha
床上浸水家屋	385世帯
床下浸水家屋	410世帯



昭和54年10月高潮災害時の松島駅前の様子

内水浸水実績について

令和4年7月の15日から16日にかけておきた大雨による内水被害の範囲を表示しています。

松島町内における被害実績	
浸水面積	639ha
床上浸水家屋	71世帯
床下浸水家屋	117世帯
人的被害	1人



令和4年7月大雨時の様子

大雨による浸水が予想される区域

土砂災害が発生しやすい区域

高潮による浸水実績区域

大郷町

松島町

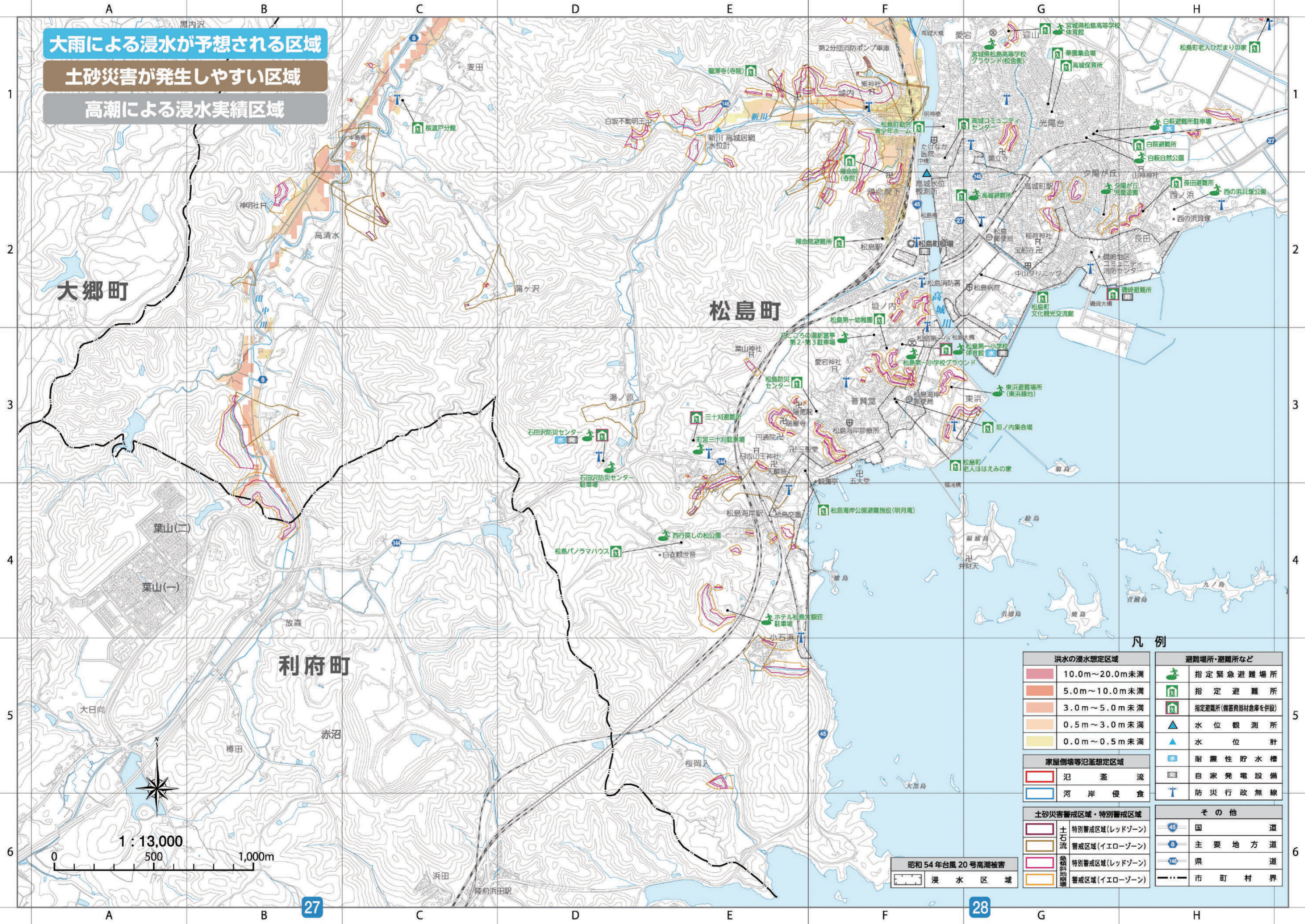
利府町

凡例

洪水の浸水想定区域		避難場所・避難所など	
	10.0m～20.0m未満		指定緊急避難場所
	5.0m～10.0m未満		指定避難所
	3.0m～5.0m未満		指定避難所(備蓄資器材倉庫を併設)
	0.5m～3.0m未満		水位観測所
	0.0m～0.5m未満		水位計
家屋倒壊等氾濫想定区域			耐震性貯水槽
	氾濫		自家発電設備
	沿岸侵食		防災行政無線
土砂災害警戒区域・特別警戒区域		その他	
	特別警戒区域(レッドゾーン)		国 道
	警戒区域(イエロゾーン)		主要 地方 道
	急傾斜地崩壊 特別警戒区域(レッドゾーン)		県 道
	警戒区域(イエロゾーン)		市 町 村 界

昭和54年台風20号高潮被害
浸水区域

1:13,000
0 500 1,000m



大雨による浸水が予想される区域

土砂災害が発生しやすい区域

高潮による浸水実績区域

凡例

洪水の浸水想定区域	
	10.0m~20.0m未満
	5.0m~10.0m未満
	3.0m~5.0m未満
	0.5m~3.0m未満
	0.0m~0.5m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	
	氾濫
	沿岸侵食
土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	特別警戒区域(レッドゾーン)
	警戒区域(イエローゾーン)
	特別警戒区域(レッドゾーン)
	警戒区域(イエローゾーン)
昭和54年台風20号高潮被害	
	浸水区域
避難場所・避難所など	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	指定避難所(備蓄資器材倉庫を併設)
	水位観測所
	水位計
	耐震性貯水槽
	自家発電設備
	防災行政無線
その他	
	国道
	主要地方道
	県道
	市町村界

1 : 13,000

0 500 1,000m

大郷町

松島町

大雨による浸水が予想される区域

土砂災害が発生しやすい区域

大崎市

松島町

大郷町

東松島市

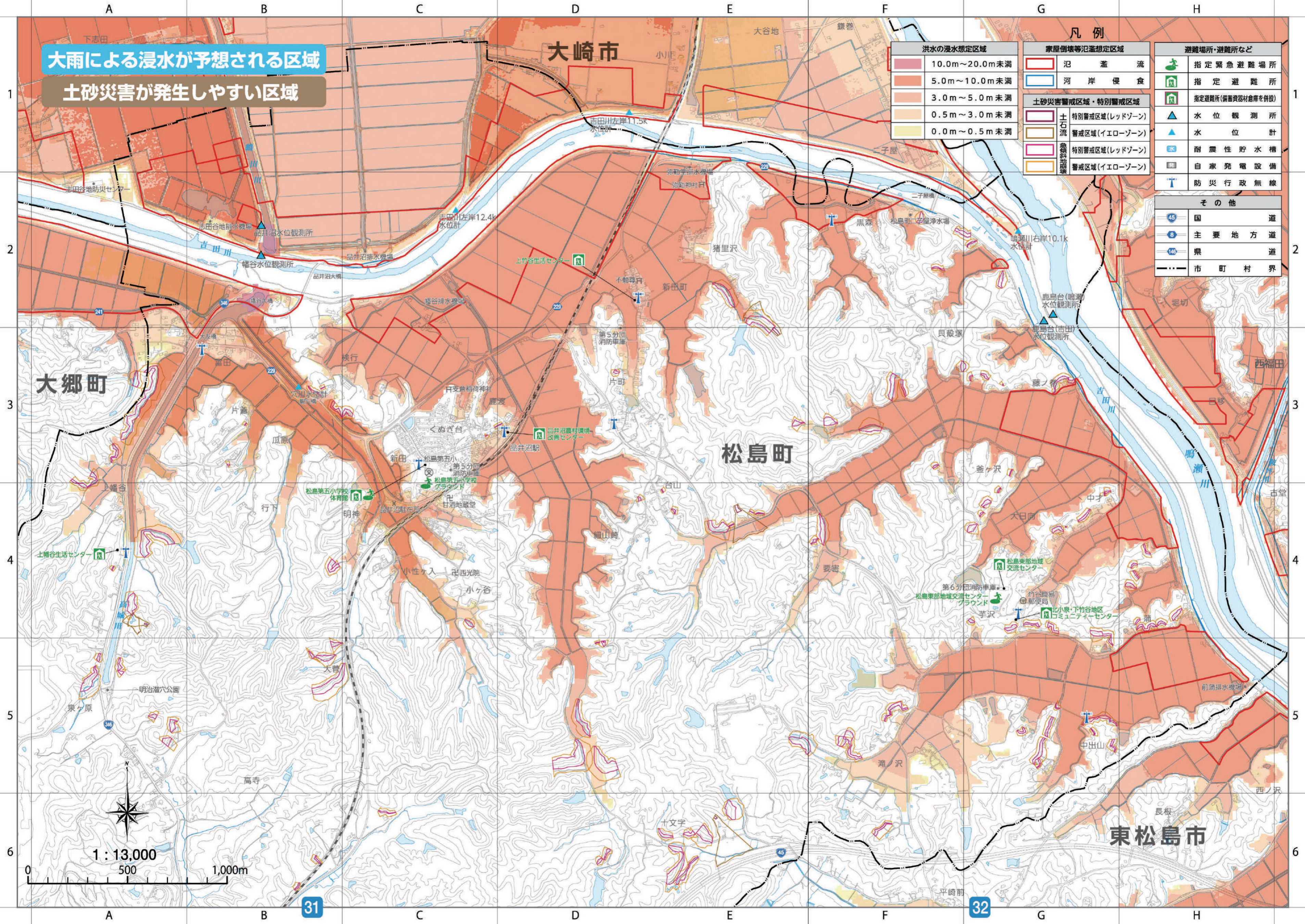
洪水の浸水想定区域	
	10.0m~20.0m未満
	5.0m~10.0m未満
	3.0m~5.0m未満
	0.5m~3.0m未満
	0.0m~0.5m未満

家屋倒壊等氾濫想定区域	
	氾濫
	河岸侵食

土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	特別警戒区域(レッドゾーン)
	警戒区域(イエローゾーン)
	特別警戒区域(レッドゾーン)
	警戒区域(イエローゾーン)

避難場所・避難所など	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	指定避難所(備蓄資器材倉庫を併設)
	水位観測所
	水位計
	耐震性貯水槽
	自家発電設備
	防災行政無線

その他	
	国道
	主要地方道
	県道
	市町村界



1 : 13,000
 0 500 1,000m

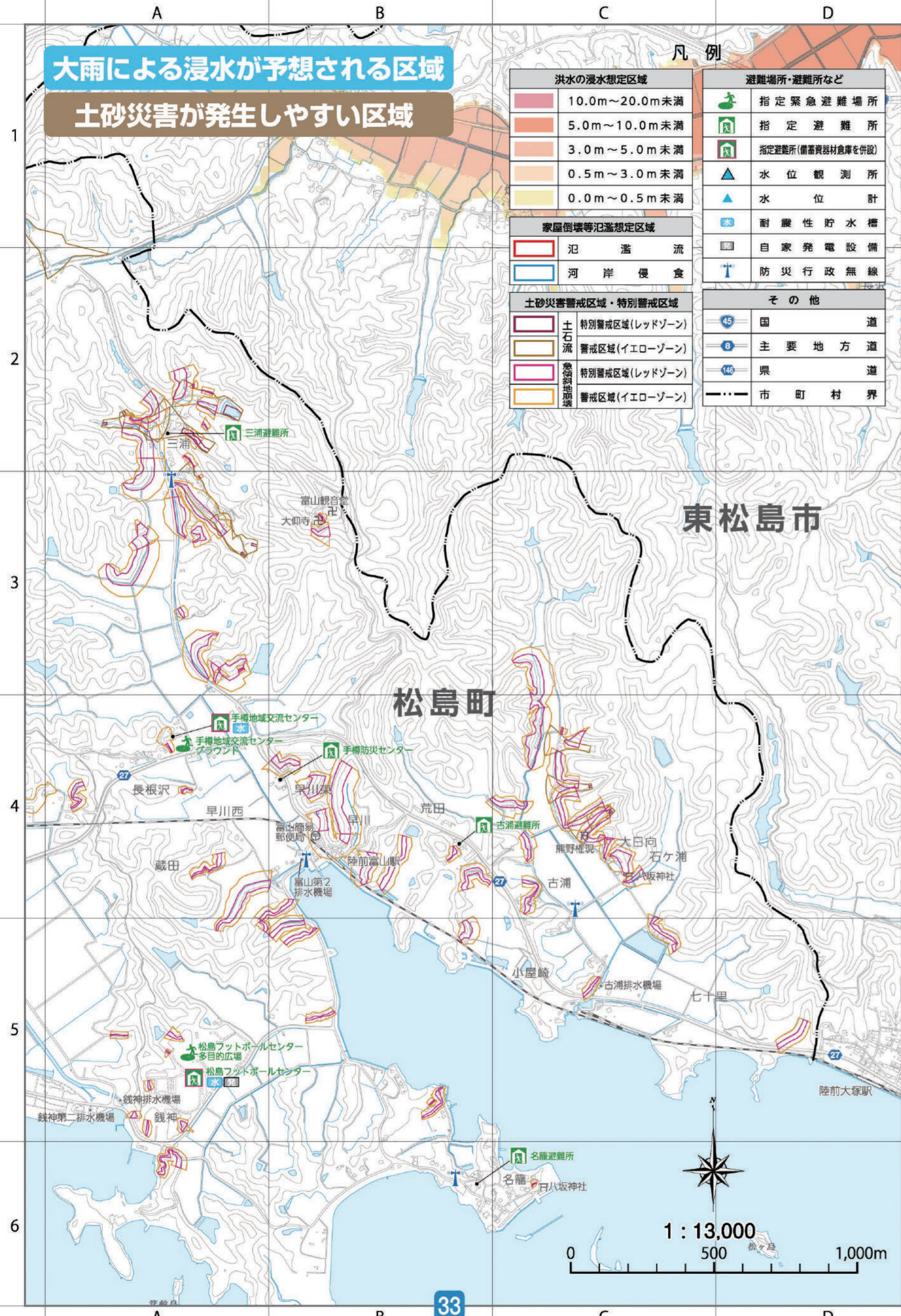
31

32

大雨による浸水が予想される区域

土砂災害が発生しやすい区域

凡例	
洪水の浸水想定区域	
	10.0m～20.0m未満
	5.0m～10.0m未満
	3.0m～5.0m未満
	0.5m～3.0m未満
	0.0m～0.5m未満
家屋倒壊等氾濫想定区域	
	氾濫流
	河岸侵食
土砂災害警戒区域・特別警戒区域	
	特別警戒区域(レッドゾーン)
	警戒区域(イエローゾーン)
	特別警戒区域(レッドゾーン)
	警戒区域(イエローゾーン)
避難場所・避難所など	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	指定避難所(備蓄資器材倉庫を併設)
	水位観測所
	水位計
	耐震性貯水槽
	自家発電設備
	防災行政無線
その他	
	国道
	主要地方道
	県道
	市町村界



内水氾濫による浸水区域



凡例	
内水氾濫の浸水区域	
	0.5m～3.0m未満
	0.0m～0.5m未満
避難場所・避難所など	
	指定緊急避難場所
	指定避難所
	指定避難所(備蓄資器材倉庫を併設)
	水位観測所
	水位計
	耐震性貯水槽
	自家発電設備
	防災行政無線
その他	
	国道
	主要地方道
	県道
	市町村界

ため池について

■ ため池の決壊

ため池の耐用能力を超える大雨や地震が発生した場合、堤体などが損傷を受ける可能性があります。大雨や地震のときは、ため池の決壊に注意しましょう。他にも融雪や老朽化による被害も過去に報告されています。

ため池の一般的な役割

ため池は、雨が少なく、大きな河川から離れた地域等で、水を貯めておく人工的な池のことです。

水辺・親水空間の形成

都市化の進行や開発によって緑や水辺空間が減少する中、水に親しむことのできる場所を提供しています。

農業用水としての役割

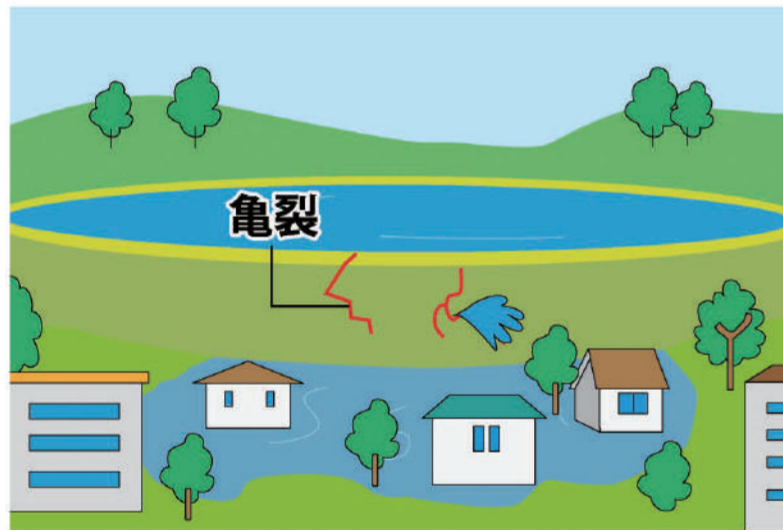
雨が少ない地域では、古くから農業用水をため池に貯め、利用しています。

防災としての役割

適切に管理することにより、大雨時の洪水調整や、火災時の防火用水としての役割があります。

■ 決壊が発生する要因

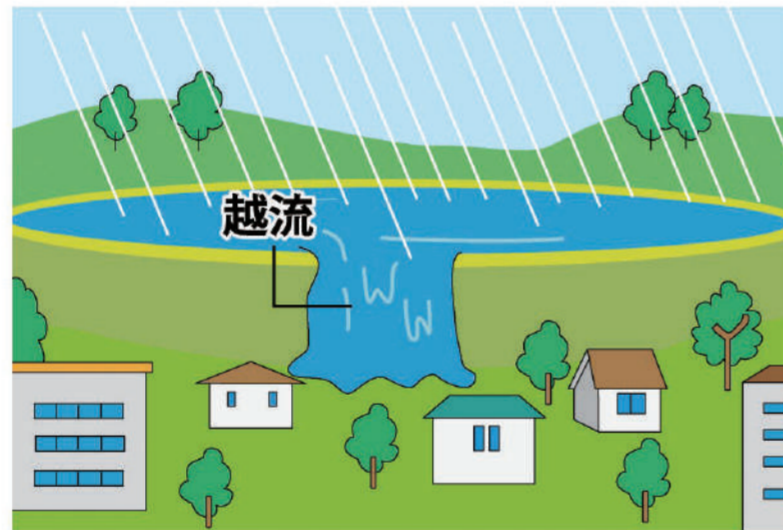
地震のとき



大きな地震が発生すると堤防に亀裂や沈下が発生し、ため池内部の水圧に耐え切れずに決壊する可能性があります。

また、地震発生直後に決壊しなくても、堤防が損傷をうけている場合には余震で決壊する可能性もあります。

大雨のとき



大雨のとき、ため池の水位が上昇すると堤体内部に水が浸透したり、堤防を越えた水の勢いで堤体が侵食され、決壊することがあります。

流木などが洪水吐を塞いでしまうと、堤防を越流しやすくなり、侵食・崩壊の危険性が一層高くなります。

災害事例

地震 福島県

平成23年3月11日の東日本大震災では、地震により、福島県内では約750か所のため池が被災しました。また、同県須賀川市で藤沼湖が決壊し、死者・行方不明者8名の犠牲者が出る被害となりました。

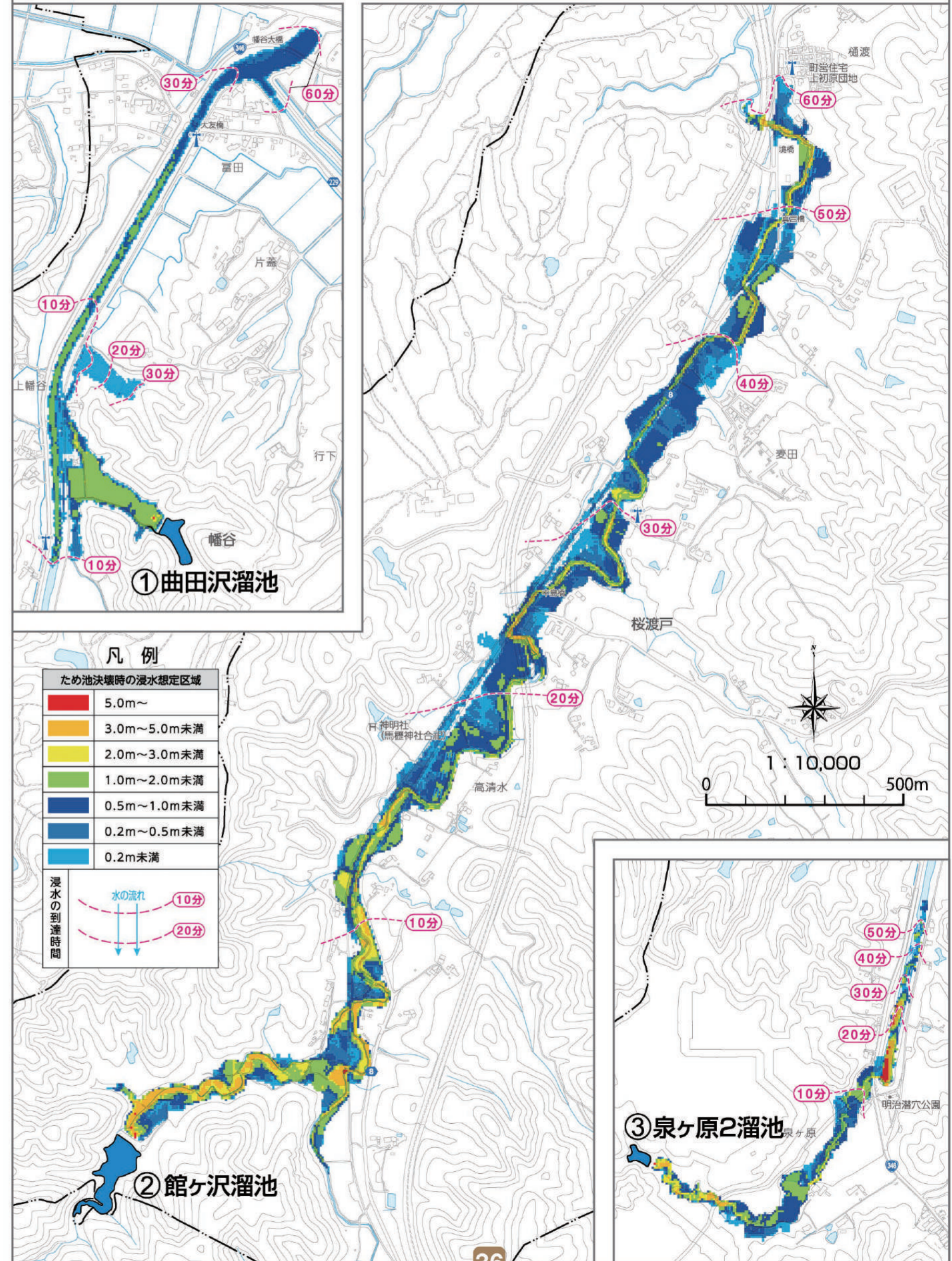


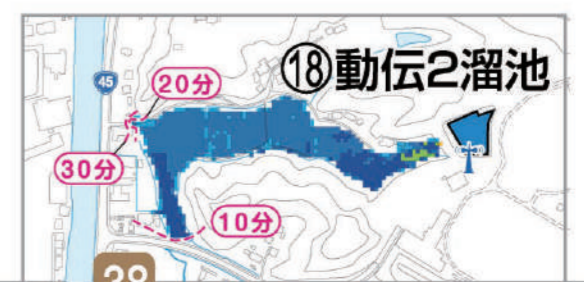
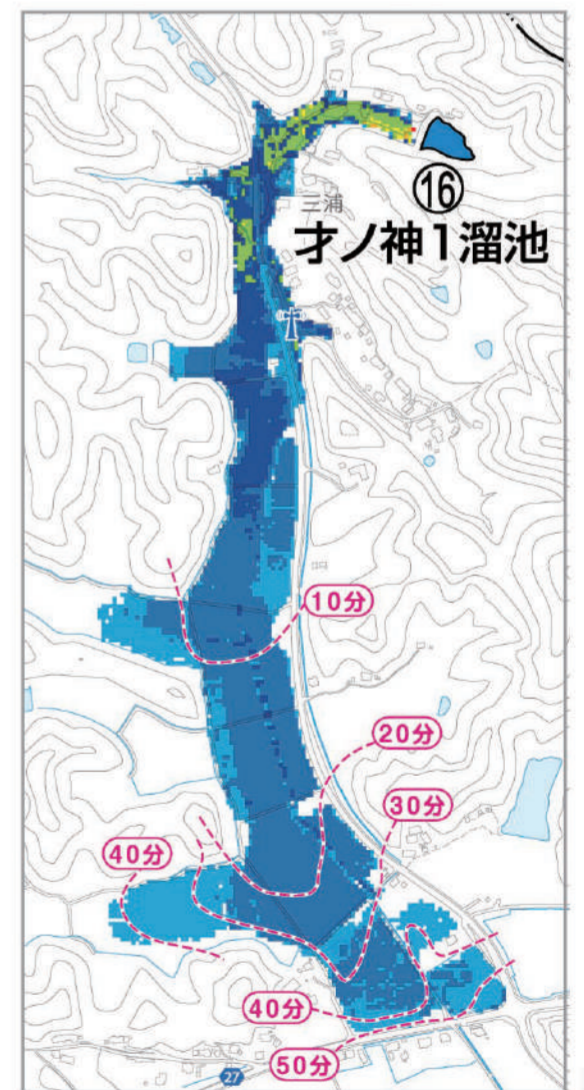
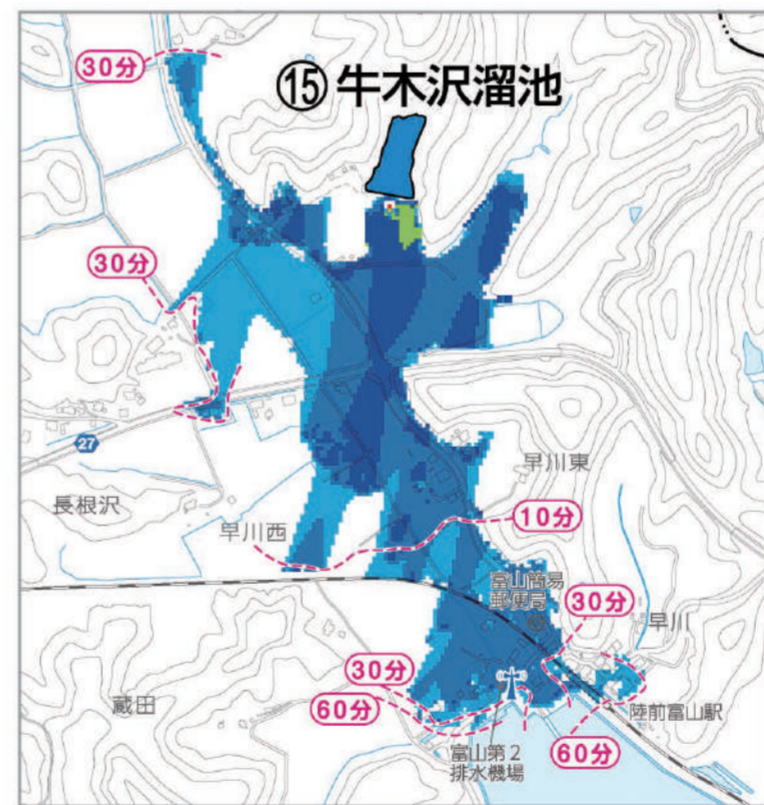
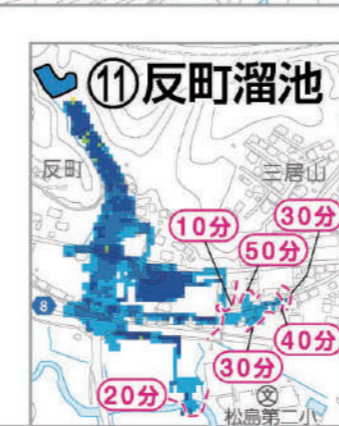
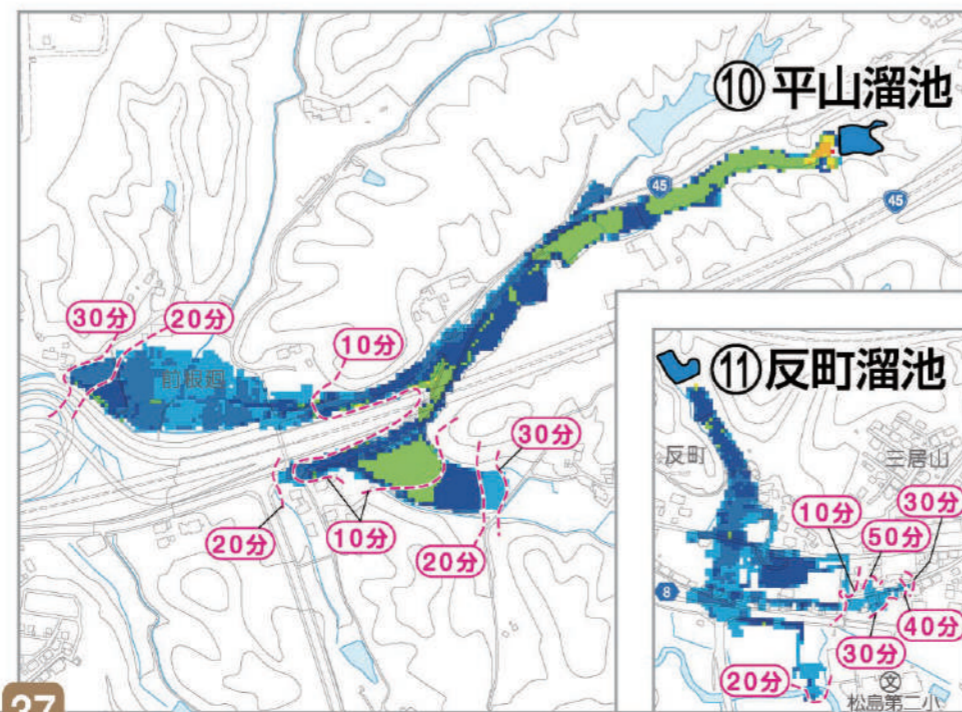
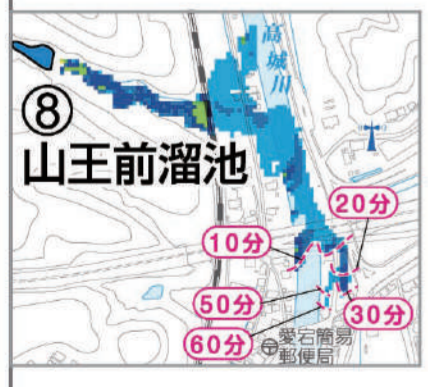
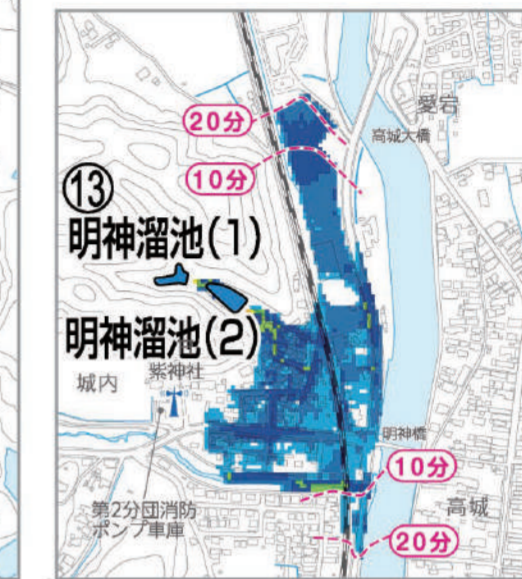
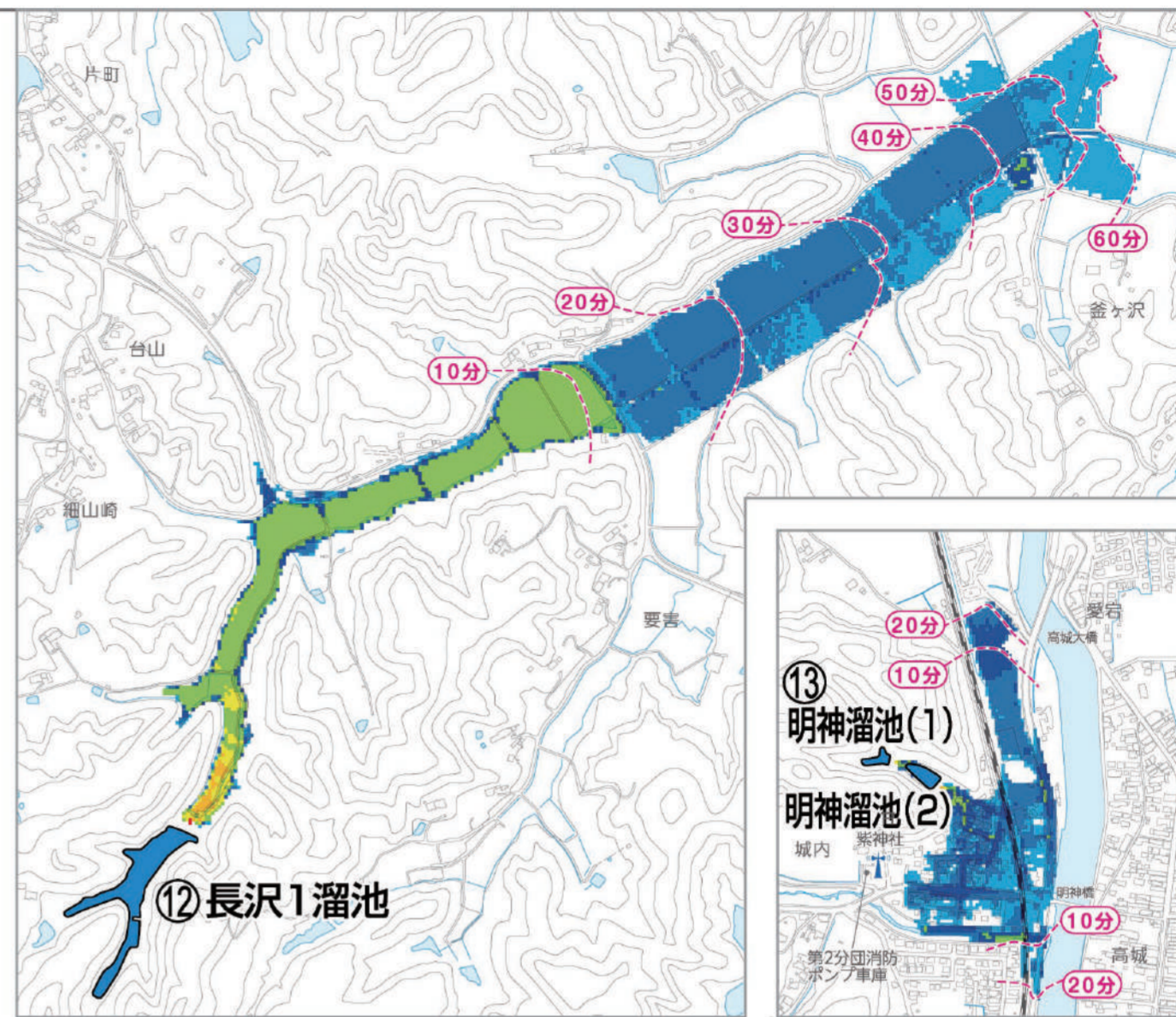
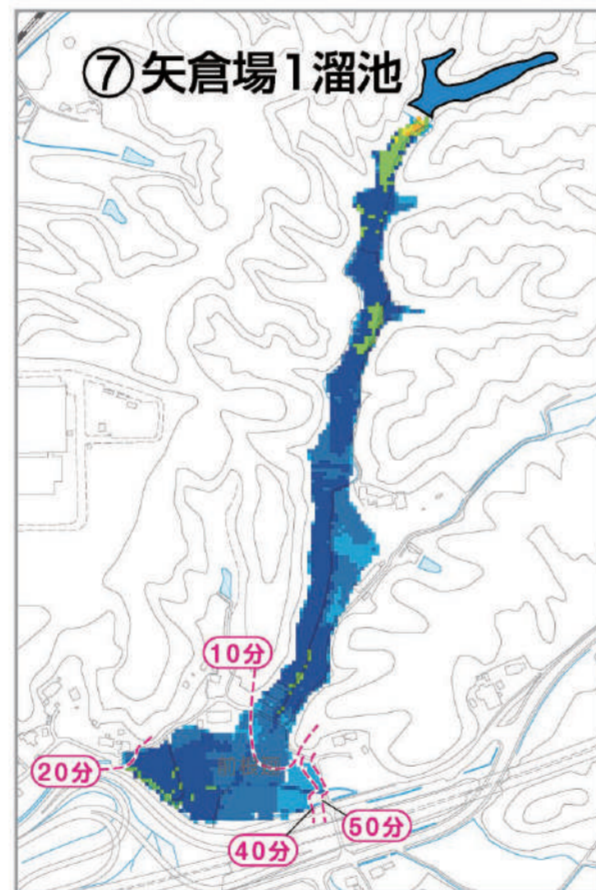
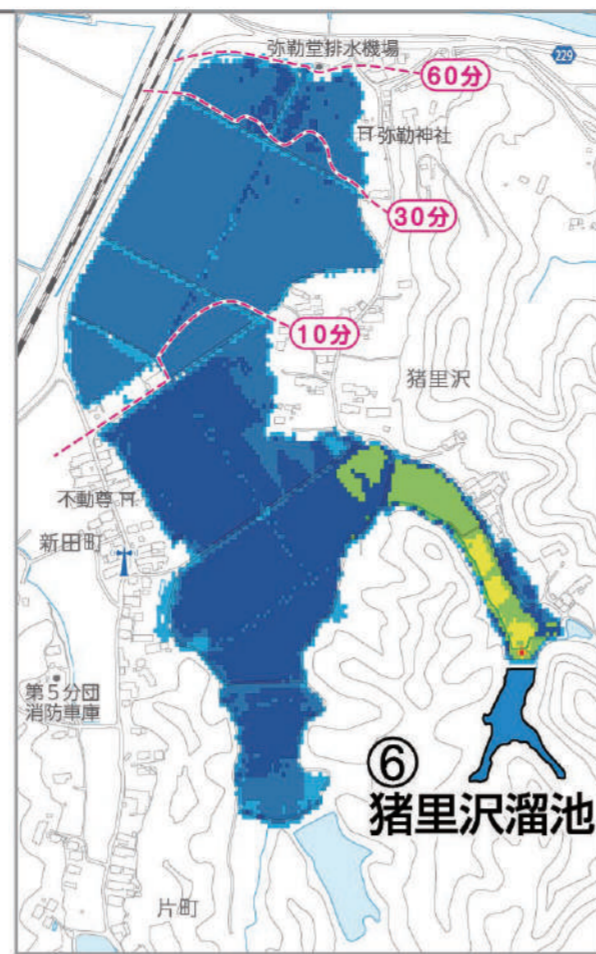
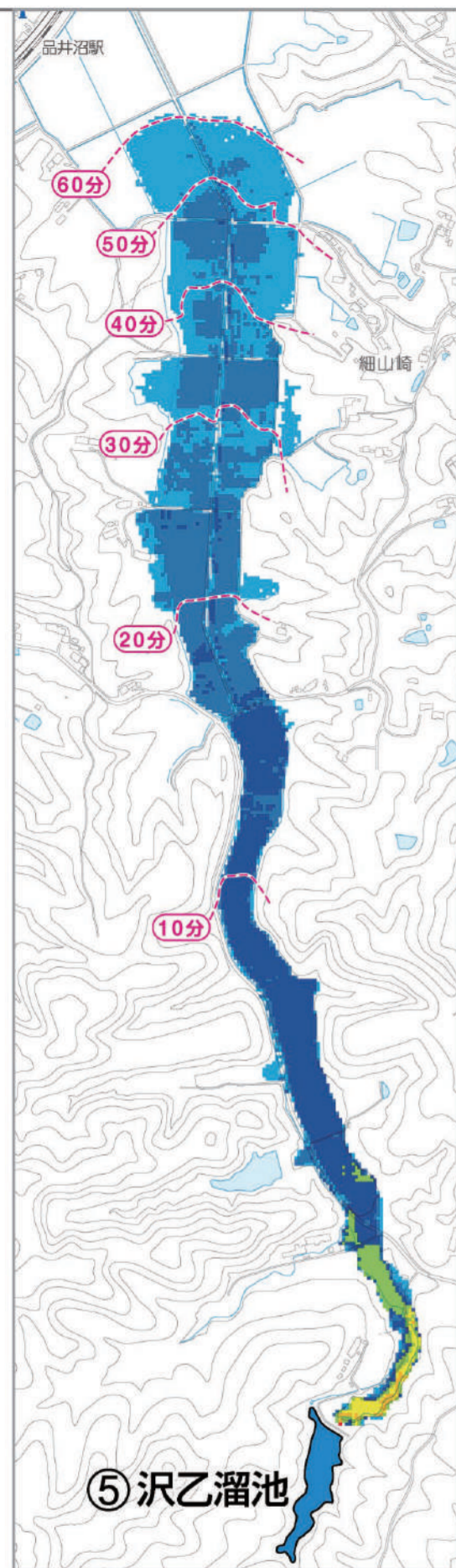
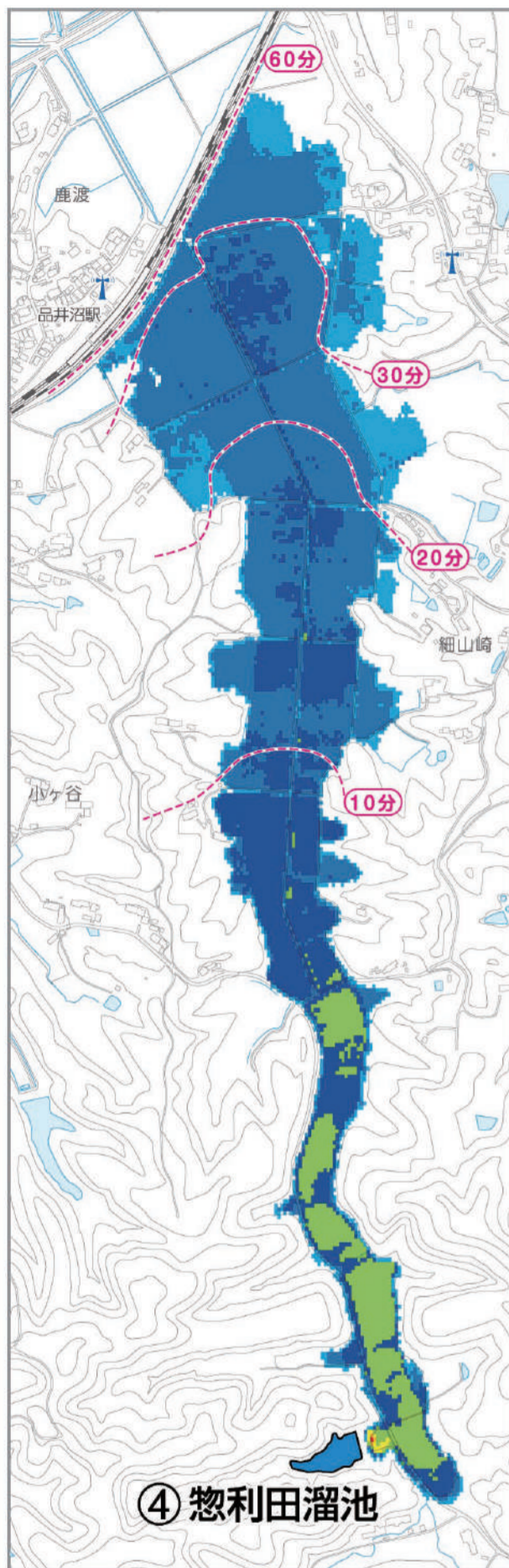
大雨 兵庫県

平成16年の台風23号では、大雨により、兵庫県の淡路島で約1,300か所のため池が被災し、約180か所のため池が決壊しました。同県洲本市では、ため池決壊による河川増水により2名の犠牲者が出る被害となりました。

ため池の決壊により浸水が予想される区域

P6に索引図があります





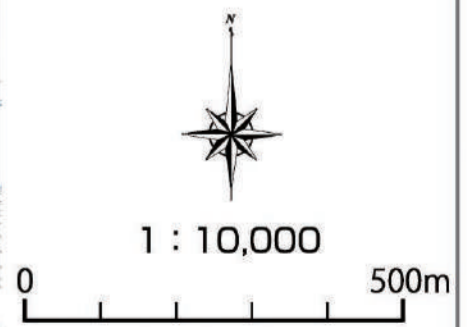
凡例

ため池決壊時の浸水想定区域

5.0m~
3.0m~5.0m未満
2.0m~3.0m未満
1.0m~2.0m未満
0.5m~1.0m未満
0.2m~0.5m未満
0.2m未満

浸水の到達時間

水の流れ	10分
	20分

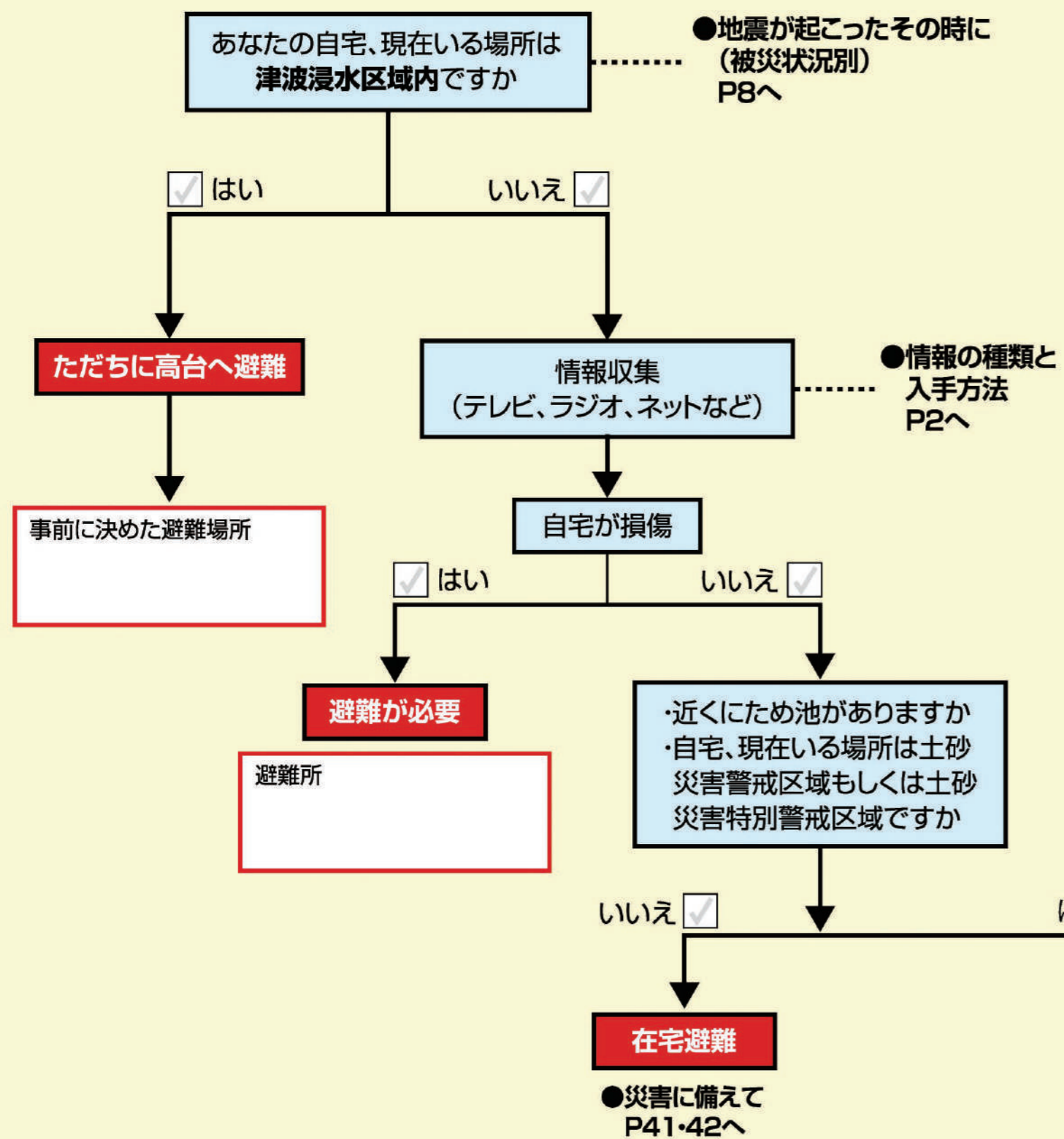


各災害における避難行動確認フロー

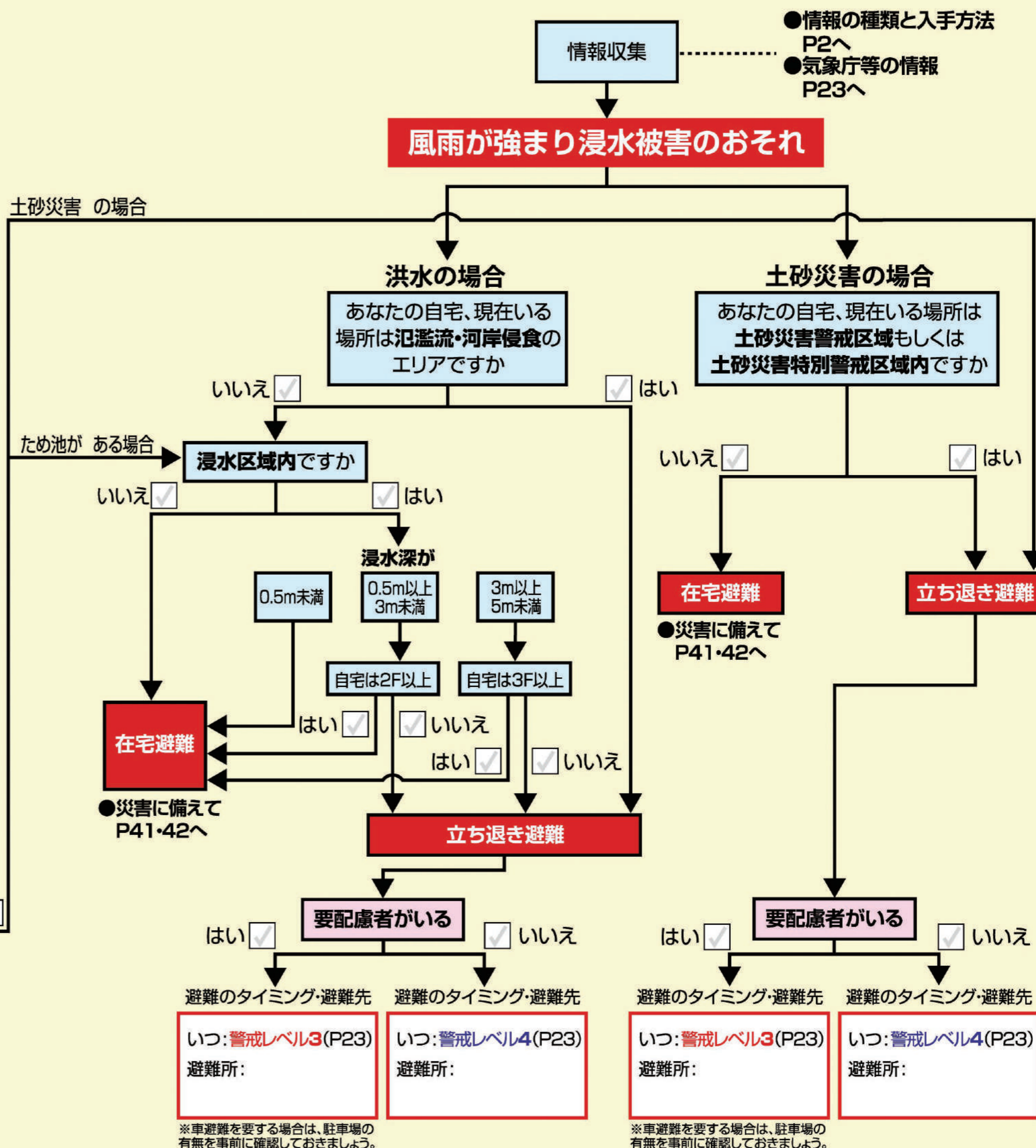
地震・津波の場合

地震発生

大きな揺れを感じたら
頭を守る、火の始末



風水害の場合

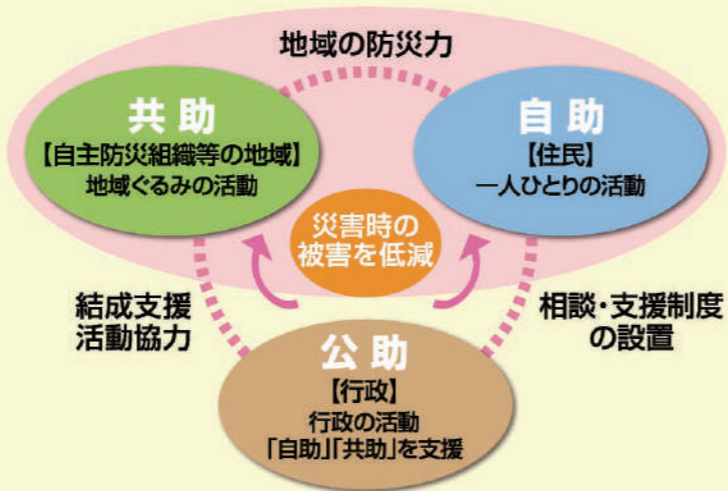




■ 自助・共助・公助

東日本大震災では、地震発生直後の住民同士の助け合いによって多くの命が救われ、発災時における自助・共助の重要性が明らかになりました。

これらのことを教訓に、今後は、「自らの命は自らが守る」、「自分たちの地域は自分たちで守る」ことを防災の基本とし、「自ら備える(自助)」、「地域で備える(共助)」の取り組みを進めることによって、住民一人ひとりの、そして地域の防災力を向上させていくことが重要です。

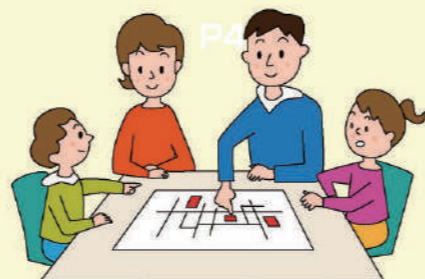


■ 家族で取り組む防災(自助)

避難所・避難経路を確認しよう

本防災マップを活用して、事前に家族で避難所を確認しましょう。避難経路は複数考えて実際に一度歩き、危険なものがないか、移動はしやすいかを確認しておきましょう。自宅から避難所だけでなく、職場や学校などよく行く場所の最寄り避難所も事前に確認しておきましょう。

ココを見よう 各ハザードの地図面



マイタイムラインを作ろう

台風や大雨による風水害は事前に情報を得て備えることが可能です。

「いつ(どの情報で)」「どこで」「何をやるのか」をあらかじめ時系列で整理してマイタイムラインをつくりましょう。

ココを見よう 私の・我が家のハンドブック裏面 P45

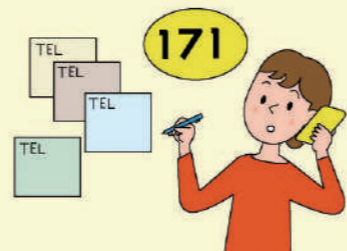


家族や親せきなどの連絡先を確認しよう

家族や親せき・友人、職場などの住所や電話番号を確認しておきましょう。

災害伝言ダイヤル「171」などの緊急時の連絡方法を確認し、体験利用をしてみるなど、事前に使い方を覚えておきましょう。

ココを見よう 本防災マップ裏表紙、私の・我が家のハンドブック表面 P44



非常持ち出し品・備蓄品を確認しよう

必要なものが揃っているか、保管場所はどこかを確認しましょう。いざというときに消費・使用期限切れにならないように定期的に確認して取り換えることも大切です。

ラジオや懐中電灯なども定期的に動作確認をしましょう。

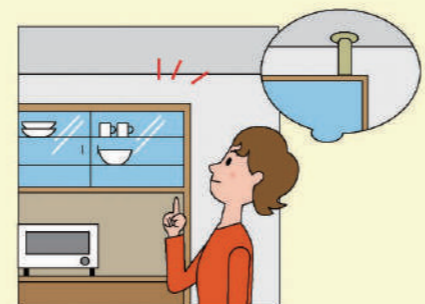
ココを見よう 非常持ち出し品と非常備蓄品 P42



自宅の点検をしよう

家の中で危険・安全な場所はどこか家族で考えてみましょう。大きな家具は固定するなど、安全対策を行いましょう。また家の中だけでなく、周囲で危険な場所(ブロック塀など)がないか、劣化はないかなどの確認も大切です。

ココを見よう 家の点検 地震→P12、風水害→P25



■ 非常持ち出し品

非常持ち出し品(一次持ち出し品)は避難するときに持ち出すものです。必要最低限のものにし、リュックなど両手が自由に使える袋に入れて準備しましょう。リュックなどに入れる重さの目安は、男性で15キロ、女性で10キロ程度です。

■ 非常食・飲料水

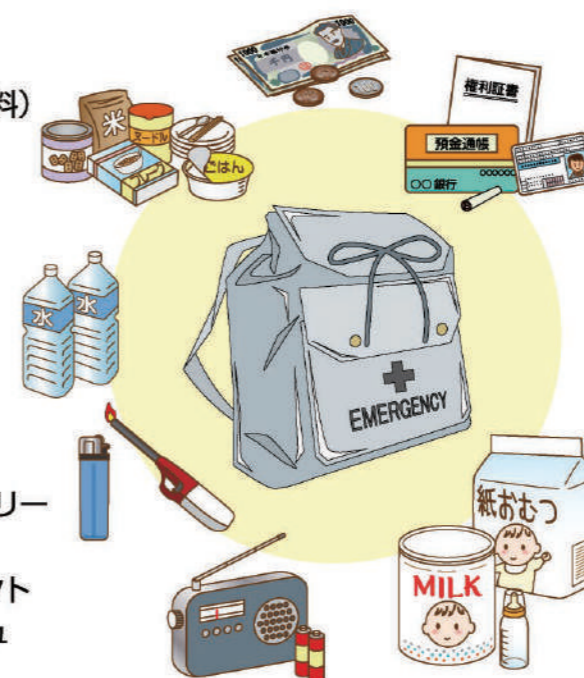
- 飲料水(1人500ml×3本)
- 非常食(カンパンやゼリー飲料)

■ 衣類など

- ヘルメット(防災ずきん)
- 上着・下着
- 靴下 カップ
- 保温アルミシート
- タオル 毛布 軍手

■ 日用品など

- 充電器 モバイルバッテリー
- 携帯ラジオ(予備電池)
- ライター めがね・コンタクト
- ティッシュ・ウェットティッシュ



■ 貴重品

- 現金(小銭含む) 印鑑
- 預貯金通帳・キャッシュカード
- 健康保険証のコピー 身分証明書
- 障害者手帳 お薬手帳

■ 医薬品・衛生用品など

- 医薬品(常備薬・ばんそうこう等)
- 携帯トイレ マスク
- ビニール袋 消毒用アルコール
- 生理用品 入歯

■ 妊婦・乳幼児・高齢者がいる家庭

- 母子健康手帳 だっこひも
- 子ども医療費助成受給者証
- 離乳食 流動食
- 乳児用ミルク 使い捨てほ乳瓶
- おしりふき 紙おむつ

■ 非常備蓄品

非常備蓄品は発災直後から混乱が収まるまでに必要なものです。できれば1週間以上生活ができるように備蓄しておきましょう。まずは「無いと困るもの」を、その次に「あれば便利なもの」を用意して災害に備えましょう。

■ 非常食・飲料水

- 飲料水(1人1日3ℓ)
- 非常食
- 栄養補助食品(チョコレート、梅干しなど)

■ 防寒・防暑用品

- 【身体を温める】
- 使い捨てカイロ
 - 保温アルミシート
 - 防寒着(手袋・帽子など)
 - 毛布
- 【身体を冷やす】
- 冷却シート
 - 瞬間冷却材 など



■ 調理器具・食器

- 卓上コンロ・ガスボンベ
- 固形燃料
- ライター
- 簡易食器(割り箸・紙皿など)
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- ラップ ナイフ など

■ 生活用品

- ティッシュ・トイレットペーパー
- ポータブル電源・ソーラー充電器
- 懐中電灯・ランタン
- ポリタンク(給水用)
- 洗面用具
- 簡易トイレ
- 消毒用アルコール など

ローリングストック法を!

「日常的」に利用している食品や日用品を、少し多めにストックしておき、生活の中で期限内に消費し、消費した分だけ買い足していく備蓄方法です。フードロスを防ぐことにつながり、非常食を食べ慣れていない人でも、普段の食事に近い食品なら災害時のストレスが軽減されるというメリットもあります。



災害に備えて

避難行動へ移す「防災スイッチ」

日常モード → **災害モード**

周辺の状況の変化

地域の防災目印と、気象情報を組み合わせて考える。

危険!!

危険!!

お互いが声をかける

ON 防災スイッチ 「避難の決断」

避難

「防災スイッチ」とは、大雨などで気象災害の発生が予想されるとき、気象情報や周囲の状況をもとに事前に決めておく日常生活を避難行動に移すスイッチ(きっかけ)のことです。(矢守・竹之内)

地域にとって重要な気象情報
テレビ、パソコン、スマホ等から入手できる情報

自分たちの身を自分たちで守るために、事前に「防災スイッチ」を地域でリーダー等とともに決めておきましょう。

例えば、
・〇〇川の水位が土手まで来たら
・山の湧水がいつもと違う時 等

京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 矢守 克也 教授 / 香川大学 創造工学部 竹之内 健介 准教授
取組事例 <https://bosaiswitch.net/researches/kawamo/>

自主防災組織への参加 (共助)

みんなで声をかけ合い「自主防災組織」の活動に参加しましょう!

町では自主防災組織の結成のために、様々な支援・協力を行っています。

災害時、被害を最小限に抑えるためには、日ごろから地域の防災力を高める取り組みを進めることが重要です。

自主防災組織の平常時の役割	自主防災組織の災害時の役割
<p>①地域内の防災環境・体制の整備</p> <p>地域内の危険箇所を確認します。また、高齢者や障害のある人など、支援が必要な方を確認し、避難体制を整えます。</p> <p>②防災訓練の実施</p> <p>安否確認の伝達方法や消火器の使用、応急手当の方法などを確認します。</p> <p>③防災知識の普及</p> <p>防災イベントなどを通して、住民一人ひとりの防災への関心を高め、正しい知識の普及に努めます。</p> <p>④防災用資器材等の安全点検</p> <p>避難誘導や消火活動、応急手当で、救出などで使う防災用資器材の整備点検を実施します。</p>	<p>①避難誘導・支援</p> <p>行政区長、民生委員、ボランティア等と協力し、指定された安全な場所に避難誘導・支援を行います。</p> <p>②避難所の開設</p> <p>施設の職員が不在等の場合でも、避難所の開設を行います。</p> <p>③消火活動や陸間の閉鎖</p> <p>消火活動や、町内に設置されている陸間の閉鎖を自主的に行います。</p> <p>④情報収集・伝達</p> <p>行政機関と連絡を取り、災害情報等を住民に伝達します。</p>

自主防災組織結成の具体的な流れ

※行政区または行政区(町内会)単位で結成し、組織の目的や活動などを定めた規約や組織体制等の報告書類を作成する必要があります。

行政区・町へ相談

組織の結成について、事前に行政区・町へ相談します。

町への報告

組織の基本的な事項が決まれば、町へ報告書類を出し、報告します。

●お問い合わせ先 松島町 総務課 環境防災班 TEL.022-354-5782

結成された自主防災組織に対し、町では次の支援・協力を行います。

- 組織体制等の相談支援
- 自主防災組織結成時の防災用資器材の提供
- 防災訓練運営のための補助金交付
- 防災訓練の支援・協力など

私の・我が家のハンドブック

家族や安否確認を
とりたい人の連絡先

名前	アドレス
電話番号	今抱えているからとの連絡
携帯電話	使用している薬
メール	血液型
名前	かかりつけの病院
電話番号	電話番号(病院)
携帯電話	郵便番号
メール	メール

ダイヤル1717の使い方

録音

再生

録音のときは「1」を、再生のときは「2」をダイヤルする。

録音は「自分の番号」、再生は「相手の番号」をダイヤルする。

録音

再生

録音のときは「1」を、再生のときは「2」をダイヤルする。

録音は「自分の番号」、再生は「相手の番号」をダイヤルする。

災害用伝言板の使い方

1 携帯の公式アプリ「メニュー」から「災害用伝言板」にアクセスする。

2 録音のときは「録音」、確認のときは「確認」を選択する。

3 録音は「状態」とコメントを、確認は「相手の携帯電話番号」を入力。

4 録音は「録音」を押せば録音完了。確認は録音済みの伝言を聞く。

危険を知らせる日本語を覚えよう
Japanese phrases to warn others of danger.
讓我們來學習警告危險的日語單詞。
위험을 알리는 일본어를 기억합니다.

逃げて! NIGETE!	Run away 逃げる
危険! ABUNAI!	Danger 危険!
避難してください HINANSHITEKUDASAI!	Evacuate the area 避難してください

電話はどこで掛けられますか? 電話はどこで掛ければいいですか?

避難する場所はどこですか? 避難する場所はどこですか?

外国語を話せる人はいますか? 外国語を話せる人はいますか?

I'm looking for... 探しています

Please give me water and food. 水と食料をください

Please take me to the hospital. 病院带我去醫院

I'm not feeling well. 体調が良くありません

I'm injured. 怪我をしています

心肺蘇生の方法

1 おーい!

反応があるか確かめる。

2 119番通報とAEDの手配。

3 呼吸が確認できない時、ただちに胸骨圧迫、人工呼吸を行う。

4 呼吸を確認する。

AEDの使い方

1 AEDを開く。

2 AEDの電源を入れ、電極パッドを貼る。フタを開けると自動で電源が入る。種類もありません。

3 AEDを傷病者の近くに置く。

4 AEDの音声メッセージに従い、ボタンを押して電気ショックを行う。

止血の方法

1 ピニールなどに手を入れ直接傷口に触れないようにする。

2 清潔なガーゼやハンカチなどを出血している箇所にあてる。

3 傷口を心臓よりも高い位置にし、強く押さえ圧迫する。

4 止血ができれば、包帯やハンカチ、ネクタイなどで固定する。

骨折の応急処置

1 折れた骨を支えるための器具になるものを用意する。

2 折れた骨の両側の関節と、器具を帯などで結び固定する。

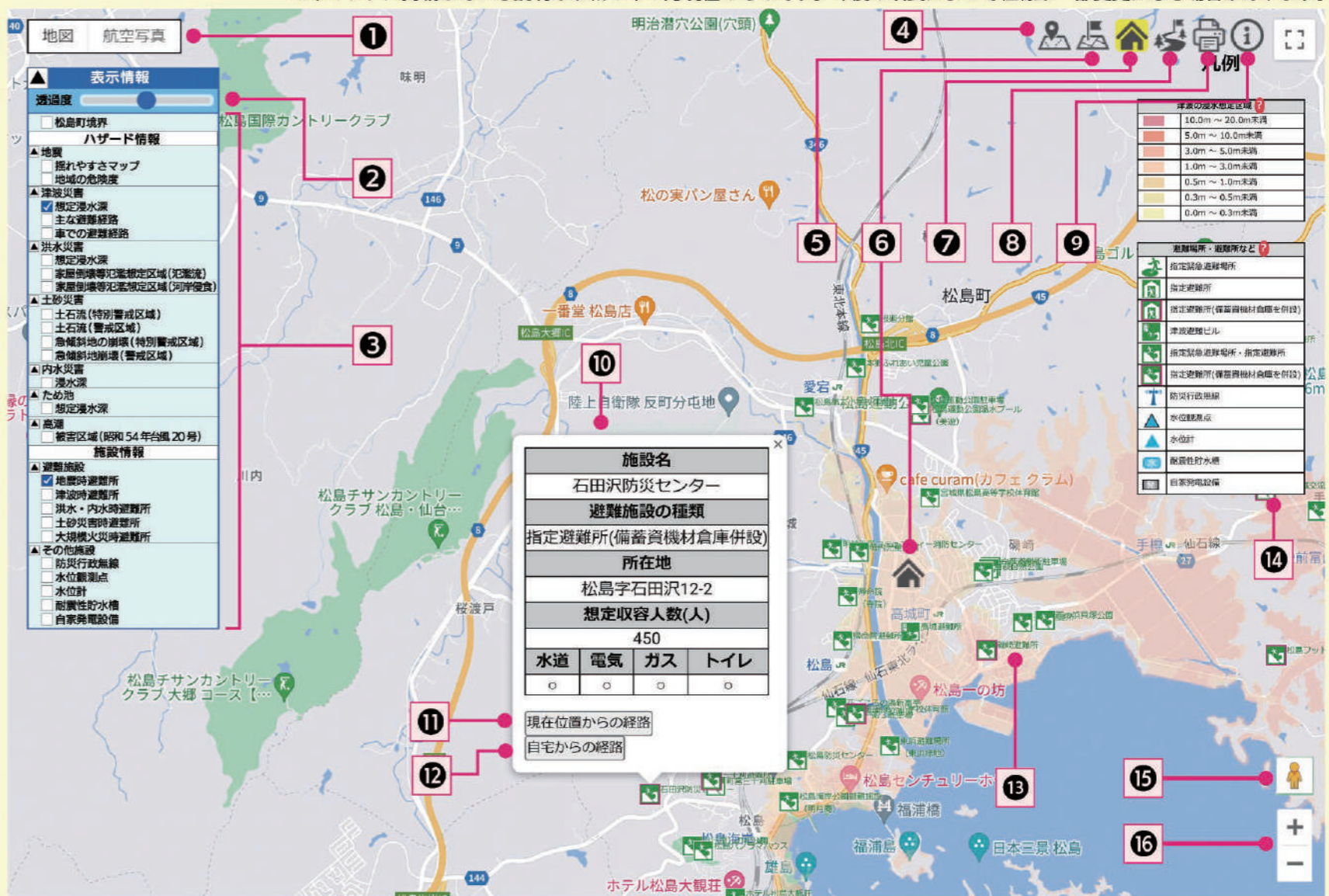
3 三角巾やピニールなどを活用して、固定した腕を首からつかむ。

4 より固定させるため、吊り下げている腕を胸にしぼりつける。

英語・韓国語・中国語(繁体字)への切り替えも可能です

Web ハザードマップの使い方

※本マップに掲載している説明は令和6年3月現在のものです。今後の改良によって仕様が一部変更になる場合があります。



- ① 基図の切り替え**
地形図および航空写真への切り替えができます。地形図では陰影起伏図を表示し、地形の高低差が視覚的に確認できます。
- ② 透過度の調整**
表示しているハザード情報の透過度を調整できます。
- ③ ハザード情報・施設情報**
ご覧になりたいハザード情報および施設情報が選択できます。複数選択し、重ね合わせることも可能です。
- ④ 現在地表示機能**
ご自身の現在地が画面上に表示されます。
- ⑤ 自宅登録機能**
ご自身の自宅の場所を登録できます。(利用端末が変更されると登録情報が変わりますので、ご注意ください。)
- ⑥ 自宅表示 / 非表示機能**
登録した自宅の表示 / 非表示が選択できます。
- ⑦ 経路検索機能**
現在地から登録した自宅までの経路を画面上に表示できます。
- ⑧ 印刷機能**
表示されている画面の印刷ができます。印刷サイズは自由に設定が可能です。
- ⑨ ヘルプ**
操作説明に関する画面を再表示します。
- ⑩ 避難施設情報表示機能**
選択した避難所の詳細な情報を表示できます。
- ⑪ 現在地からの避難施設までの経路検索機能**
④を一度クリックすることで操作が可能です。現在地から避難施設・その他施設までの経路を表示します。
- ⑫ 自宅からの避難施設までの経路検索機能**
⑤を一度クリックすることで操作が可能です。登録した自宅から避難施設・その他施設までの経路を表示します。
- ⑬ 任意地点ハザード情報の表示**
マップ上に表示しているハザードをクリックすると、その地点の詳細なハザード情報が表示されます。
- ⑭ 凡例**
選択されたハザードおよび施設情報に関する凡例が表示されます。?マークを押すとハザードや施設に関する説明がご覧いただけます。
- ⑮ ストリートビュー**
- ⑯ 地図の拡大・縮小**
地図の拡大・縮小ができます。カーソルのスクロールボタンでも可能です。

ハザードマップ掲載サイトはこちら

以下の URL からのアクセスも可能です。
https://www.town.miyagi-matsushima.lg.jp/index.cfm/6,111,57,184.html



(切迫の場ⓧ)

地震が起こったらタイムラインに沿って冷静に行動するようにしましょう! P15~P20参照

地震時のタイムライン

【地震】
自宅の災害リスクチェック

P14参照 地震 震度 _____ 地域の危険度 _____

P15~P20参照 津波 _____ mの浸水 _____

P27~P33参照 土砂災害(特別)警戒区域(土石流・急傾斜地崩壊)

P36~P38参照 ため池決壊 _____ mの浸水 到達時間 _____ 分

まずは自分の身を守る!

- シェイクアウト!
- あわてて飛び出さない!
- 扉を開けて避難路を確保する!
- 倒れてくる家具や落下物に注意!
- フロック塀などから離れる!

シェイクアウト
地震が発生したら、すぐに30秒の行動(シェイクアウト)をしてください

行 **伏** **休**

あたまをまもり うごかない

自宅・自分の身の回りを確認

- 【津波浸水想定区域の方】** 津波に関する警報等が発表されたら!
- 非所持ち出し品を持って、区域外へ避難開始!
- 区域外への避難が間に合わない場合は、高い安全な場所を目指して避難する!

- 【津波浸水想定区域の方・津波に関する警報等が発表されたら】**
- 落ち着いて状況を把握する
- 家族の安全を確認する
- 火の始末・ガスの元栓を締める・コウキーカーを落とす
- ラジオ等で災害情報を継続して入手する
- 非所持ち出し品をすくりに持っていきけるように準備する
- 自宅や周辺の被災状況によっては避難所等へ避難する

次の地震に備えてとる行動

- 余震に注意する
- 次の地震・津波に備えて再避難の準備をする
- 家族や親せき、近所の人等の安否確認
- 協力して周辺の救護・消火活動
- 飲料水・食料・生活用水の確保

津波により家屋が浸水した方

- 避難施設等で避難生活を継続
- 津波により家屋が浸水しなかつた方、
自宅へ戻り生活

災害が起こる前からタイムラインを確認し、避難経路などを理解しておくことが重要です!

洪水時のタイムライン

【台風・大雨】
自宅の災害リスクチェック

P27~P33参照 洪水 _____ mの浸水 _____

P27~P33参照 家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸侵食)

P27~P33参照 土砂災害(特別)警戒区域(土石流・急傾斜地崩壊)

P34参照 内水氾濫 _____ mの浸水 _____

P36~P38参照 ため池決壊 _____ mの浸水 到達時間 _____ 分

わか家の避難行動

- 防災グッズや避難の服装を再確認する
- テレビやインターネットで天気予報を確認する
- ハザードマップで、避難所や避難ルートを確認する
- 家族の今後の予定を確認する近所の人々の安否を確認
- 鉢植や物干しなど飛ばされそうなものを家の中に入れる

- 動きやすい服に着替える
- テレビやインターネットで雨雲レーダーや川の水位を確認
- 携帯電話を充電する

- 早めに避難開始!**
- キギクルを確認する
- 家族や親戚に避難先を連絡する

自宅にとどまることができない場合

●洪水・内水氾濫

●避難先

●避難先

- 身の安全を確保する

避難できていない場合には、緊急的に安全を確保できる場所やより高いところへ移動しましょう!

「行」は避難の取組に使用します。緊急に役に立つ「利用」は「伏」

